

# 静岡県月例経済報告

(令和4年3月号)

……令和4年1月を中心とした県内経済のすがた……

No. 551

—静岡県経済産業部—

# 目 次

I 静岡県経済の概況 .....	1
II 静岡県主要経済指標の概況 .....	6
・ 需要面 .....	6
・ 生産面 .....	14
・ 雇用面 .....	16
・ その他 .....	19
III 静岡県主要産業の動向 .....	23
IV データからみた県内主要産業 .....	26
<特集> 令和3年の静岡県経済を振り返って .....	27

## 利用にあたって

- 1 本月報は、本県経済の状況について、経済統計及び産業動向をとりまとめたものである。
- 2 本月報は4部から構成されている。
- 3 第1部では、本県経済の概況について経済統計データを中心に述べているが、指標によっては当該月データが未公表のため前月値を用いる場合がある。これらの指標は文中に示している。
- 4 第2部では、本県経済の動向について主要経済指標を用いて、データとグラフで示している。
- 5 第3部では、本県の主要産業動向について簡単にまとめている。
- 6 第4部では、本県の主要産業動向についてデータで示している。
- 7 本月報で用いた ▲はマイナスを表している。
- 8 数字の単位未満は四捨五入することを基本としているが、情報提供元の公表方法に準拠させている。

この「静岡県月例経済報告」は、静岡県経済産業部のインターネット・ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス(URL) <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>

# I 静岡県経済の概況

〔本稿は、令和4年1月を中心とした経済統計及び企業ヒアリングをもとに取りまとめている。〕

## 概況

令和4年1月を中心とした静岡県の景気は、供給面の制約が残るほか、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響から足踏み状態が続いている。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限の緩和による持ち直しの動きが期待される一方、新型コロナウイルス変異株等の動向に十分注意する必要があるほか、原材料価格の動向や部品供給停滞等の影響に留意する必要がある。

雇用情勢は、全体として厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる。

- ・ 個人消費は、全体として横ばいとなっている。
- ・ 設備投資は、増加の動きがみられる。
- ・ 輸出は、おおむね横ばいとなっている。
- ・ 生産は、弱めの動きが続いている。

(下線部は前月からの変更箇所)

## 需要面

### 「個人消費は、全体として横ばいとなっている」

大型小売店販売額(1月)は、スーパーが前年実績を下回ったものの、百貨店が前年実績を上回ったため、総額でも3か月ぶりに前年実績を上回った。

専門量販店等販売額(1月)は、家電大型専門店、ホームセンターが前年実績を下回ったものの、コンビニエンスストア、ドラッグストアが前年実績を上回ったため、総額でも3か月ぶりに前年実績を上回った。

自動車(新車)新規登録台数(1月)は、乗用車、軽自動車がいずれも前年実績を下回ったため、総数でも7か月連続で前年実績を下回った。

### 「住宅建設は、前年を下回った」

新設住宅着工戸数(1月)は、持家、貸家、分譲住宅がいずれも前年実績を下回ったため、総数でも2か月連続で前年実績を下回った。

### 「公共投資は、前年を上回った」

公共工事請負金額(1月)は、2か月連続で前年実績を上回った。

### 「設備投資は、増加の動きがみられる」

日銀短観(12月調査)の令和3年度の設備投資(含む土地投資)(計画)は、製造業で増加、非製造業で減少、全産業で増加する計画となっている。

また、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資(除く土地投資)(計画)は、製造業で増加、非製造業で減少、全産業で増加する計画となっている。

着工建築物床面積(非居住用)(1月)は、6か月連続で前年実績を上回った。

「輸出は、おおむね横ばいとなっている」

「輸入は、前年を上回った」

輸出総額(1月)は、原動機が2か月ぶり、二輪自動車類が3か月連続、科学光学機器が7か月連続で前年実績を上回ったものの、エアコンが11か月ぶり、自動車は8か月連続、自動車の部分品が2か月連続で前年実績を下回ったことから、総額でも2か月連続で前年実績を下回った。

また、輸入総額(1月)は、魚介類及び同調製品が7か月ぶり、自動車の部分品が4か月連続で前年実績を下回ったものの、木材が11か月連続、パルプが10か月連続、紙類及び同製品が2か月連続、原動機が12か月連続で前年実績を上回ったことから、総額でも12か月連続で前年実績を上回った。

なお、輸出入のバランスは、538億円の輸出超過となった。

## 生産面

「生産は、弱めの動きが続いている」

鉱工業生産指数(1月)は、業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械が2か月ぶり、化学が3か月連続、パルプ・紙・紙加工品が9か月連続、食料品・たばこが6か月ぶりに前年水準を上回ったものの、電気機械が7か月連続、輸送機械が8か月連続で前年水準を下回ったため、総合でも5か月連続で前年実績を下回った。また、前月比は2か月連続で減少した。

なお、鉱工業在庫指数(1月)は、総合では2か月連続で前年水準を下回った。

## 雇用面

「雇用情勢は、全体として厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられる」

有効求人倍率(1月)は1.18倍で、前月を0.04ポイント上回り、3か月連続で全国値を下回った。

雇用保険受給者実人員(1月)は、8か月連続で前年実績を下回った。

また、所定外労働時間指数(12月)は、2か月ぶりに前年実績を上回った。

## その他

「金融環境は、貸出残高は前年を下回り、信用保証金額は前年を上回った」

県内金融機関の貸出残高(1月)は、前年同月比 1.9%減と前年実績を下回った。

信用保証協会保証金額(1月)は、前年同月比 44.8%増と前年実績を上回った。

「企業倒産は、件数、負債総額のいずれも前年を下回った」

企業倒産(2月)は、月件数は7件(前年同月比 46.1%減)、負債総額は746百万円(同 76.3%減)と、いずれも前年実績を下回った。

事業継続・強化

# 燃油・飼料価格高騰による購入費用の増加に対する助成

令和4年2月補正で、燃油・飼料価格高騰に対する助成を創設しました。  
申請等に関する詳細は、今後公開しますのでご確認ください。

施設園芸燃油価格高騰緊急対策事業費助成	<b>区 分</b>	<b>内 容</b>	<b>お問い合わせ先</b>
	対象者	施設園芸農家（※）	農芸振興課 054-221-3299
	対象経費	基準価格を超えた燃油代	
	補助率	1/2以内	
	対象期間	令和4年1月～3月	
	申請先	県内各農業協同組合等	
	申請期間	令和4年5月～6月（予定）	
飼料価格高騰緊急対策事業費助成	<b>区 分</b>	<b>内 容</b>	<b>お問い合わせ先</b>
	対象者	畜産農家（※）	畜産振興課 054-221-2705
	対象経費	基準価格を超えた飼料代	
	補助率	1/2以内	
	対象期間	令和4年1月～3月	
	申請先	静岡県配合飼料価格安定基金協会等	
	申請期間	令和4年6月～7月（予定）	
漁業用燃油価格等高騰緊急対策事業費助成	<b>区 分</b>	<b>内 容</b>	<b>お問い合わせ先</b>
	対象者	漁業者、養殖業者（※）	水産振興課 054-221-2695
	対象経費	基準価格を超えた燃油代、飼料代	
	補助率	1/2以内	
	対象期間	令和4年1月～3月	
	申請先	静岡県漁業協同組合連合会	
	申請期間	令和4年6月～7月（予定）	

※国のセーフティネット制度に、令和4年度以降、加入することを要件とする。

## <トピックス> 「令和4年度当初予算」の概要

### 富国有徳の「美しいふじのくに」づくり

ガーデンシティ

### ～ 危機を克服して未来を拓く デジタル田園都市の実現へ ～

ポストコロナ時代を見据えた、次期総合計画「静岡県の新ビジョン 後期アクションプラン」を、計画初年度からの確に展開するための予算編成と組織改編を行い、誰一人取り残さない「富国有徳」の美しいふじのくにの実現を目指します。

### 令和4年度当初予算 一般会計 1兆3,644億円【対前年度当初比 550億円増（4.2%増）】

(単位：百万円・%)

区分	4年度当初	3年度当初	増減	伸率
一般会計	1,364,400	1,309,400	55,000	4.2
特別会計	796,572	798,794	△ 2,222	△ 0.3
企業会計	83,917	80,911	3,006	3.7
合計	2,244,889	2,189,105	55,784	2.5

### 方針1 人づくり・富づくりを具体化する取組

#### (1) 安全・安心な地域づくり

#### (2) 持続的な発展に向けた新たな挑戦

(経済産業部 主な事業)

##### ・中小企業脱炭素化推進事業費(新規) (35百万円)

中小企業の脱炭素化や省エネの取組に対する支援体制を構築し、温室効果ガスの排出削減を推進

#### (3) 未来を担う有徳の人づくり

(経済産業部 主な事業)

##### ・多様な働き方導入推進事業費 (23百万円)

県内企業における「新しい働き方の実践」を支援するとともに、県内企業のテレワーク導入・定着を支援

#### (4) 豊かな暮らしの実現

(経済産業部 主な事業)

##### ・産業成長戦略推進事業費 (32百万円)

企業参加型オンラインコミュニティ運営などを通じ、本県経済を牽引する可能性のある地域企業を支援

##### ・EV・自動運転化等技術革新対応促進関連事業費 (418百万円)

EV（電気自動車）化や、デジタル化などの産業構造の変化に対応する県内企業を支援

##### ・伊豆ヘルスケア温泉イノベーション推進事業費 (50百万円)

温泉を核とし、自然・歴史・文化・食・運動等と組み合わせた伊豆地域に適したヘルスケア産業を創出

##### ・国内販路開拓（首都圏等・山の洲）関連事業費 (89百万円)

新たな広域経済圏「山の洲」の形成による域内サプライチェーンの構築を図るとともに、首都圏等において「しずおか食セレクション」の愛称「頂」を活用したブランド力向上に取り組む

##### ・中小企業等支援関連事業費 (3,499百万円)

新たなビジネスモデルへの挑戦や生産性向上の取組、事業継続等を支援

##### ・AOIプロジェクト関連事業費 (519百万円)

環境負荷軽減と生産性・収益性向上の両立に資する技術等の研究開発及び農業現場への普及・展開を推進

##### ・森林・林業イノベーション推進関連事業費 (174百万円)

森林のデジタル情報基盤の整備や、先端技術の現場実装に向けた実証支援等

##### ・水産イノベーション推進事業費助成 (60百万円)

業界横断型の総合的相談体制を整備するとともに、新しい生活様式に対応した販路拡大等の取組に助成

#### (5) 魅力の発信と交流の拡大

(経済産業部 主な事業)

##### ・ガストロノミーツーリズム関連事業費 (39百万円)

生産者、料理人、観光関係者等が連携する仕組みづくり及びイベント等を行う

### 方針2 生産性の高い持続可能な行財政運営

#### (1) 政策の推進に向けた組織体制の強化

#### (2) 将来にわたって安心な財政運営の堅持

# <トピックス> 業種別の経済・雇用情勢

## ① 県制度融資の利用状況

(R4年3月23日時点)

区分		申込状況		
		金額	件数	業種別の状況
R 2	新型コロナウイルス感染症対応枠(旧) 【R2.2.12~4.17終了】	億円 2,334	件 8,158	卸小売業23.5%、製造業22.0%、建設業17.1%、飲食業12.8%、宿泊・旅行業3.5%等
	国連携新型コロナウイルス感染症対応貸付 【R2.5.1~R3.3.31】	億円 8,064	件 53,666	建設業26.0%、卸小売業19.8%、製造業19.5%、飲食業7.9%、宿泊・旅行業1.3%等
	新型コロナウイルス感染症対応枠(新) 【R2.4.28~R3.3.31】	億円 447	件 1,268	製造業22.4%、卸小売業19.5%、建設業19.0%、飲食業5.4%、宿泊・旅行業3.0%等
R 3	新型コロナウイルス感染症対応枠(新) 【R3.4.1~】	億円 245	件 2,891	建設業34.5%、卸小売業17.4%、製造業12.5%、飲食業10.0%、宿泊・旅行業1.8%等
	新型コロナウイルス感染症対応伴走支援 特別枠(新)【R3.4.1~】	億円 269	件 1,739	建設業24.7%、卸小売業21.0%、製造業20.4%、飲食業9.7%、宿泊・旅行業3.3%等
	再生支援企業貸付(新型コロナウイルス 感染症対応枠)(新)【R3.4.1~】	億円 14	件 52	製造業63.5%、卸小売業13.5%、建設業11.5%、運輸業11.5%、飲食業0.0%、宿泊・旅行業0.0%
計		億円 11,373	件 67,774	リーマンショック時：保証料承諾額 1,749億円 (H20.9~H21.8：1年間) 東日本大震災時：保証料承諾額 553億円 (H23.4~H24.3：1年間)

## ② 県内の新規求人数(季節調整値)の推移

業種別新規求人(一般+パート)前年同月比の推移

(%)

区分	R3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年 1月	2月
農・林・ 漁・鉱業	10.1	41.2	▲17.0	▲10.3	47.3	0.6	▲7.4	▲15.8	8.6	45.8	▲6.6	43.0
建設業	12.5	16.1	2.0	4.8	7.1	13.7	7.9	1.4	6.4	4.1	8.6	2.3
製造業	13.8	20.8	51.6	51.5	55.8	70.3	42.0	29.4	45.9	42.2	32.6	39.0
卸売・小売業	▲7.7	▲3.6	▲3.9	18.2	17.4	4.5	11.1	14.6	13.7	10.3	12.6	18.1
金融、保険 不動産業	12.7	▲15.0	7.3	11.1	▲20.5	33.3	6.1	▲35.6	35.7	9.7	21.4	13.3
運輸業	▲3.3	▲13.8	▲3.2	▲0.5	13.4	▲0.1	10.7	23.5	1.8	31.2	36.0	14.1
情報通信業	64.5	▲11.5	16.5	16.6	9.0	23.5	4.3	2.8	▲5.4	▲9.6	7.6	▲6.8
飲食、宿泊 サービス業他	1.3	27.0	31.8	8.8	48.8	24.8	4.6	26.2	17.5	17.8	28.3	28.2
県全体	1.7	11.4	14.3	15.2	23.5	16.5	11.5	13.5	17.8	15.2	15.6	20.1

(出典：静岡県内の最近の雇用情勢(静岡労働局))

## ③ 県内企業の倒産状況

業種別倒産件数(負債金額1千万円以上)の推移

(件)

区分	R3年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年 1月	2月
農・林・ 漁・鉱業	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
建設業	2	5	3	2	4	3	4	4	7	6	3	1
製造業	10	0	4	4	2	0	3	4	2	2	1	1
卸売・小売業	4	6	1	1	1	1	2	4	2	1	0	1
金融、保険 不動産業	1	1	0	1	2	1	2	1	1	0	1	0
運輸業	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1
情報通信業	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
飲食、宿泊 サービス業他	1	4	6	3	3	3	4	6	5	3	3	2
県全体	18	18	15	13	13	8	15	20	19	13	8	7
うちコロナ 関連倒産	5	3	4	4	4	0	7	2	1	5	2	3

(出典：東京商工リサーチ静岡支店調べ)

## Ⅱ 静岡県主要経済指標の概況

### 需 要 面

#### 1 個人消費

##### (1) 大型小売店販売額

1月 = 37,583百万円

\*前年同月比： 0.9%増

(県内3百貨店、152スーパー合計)

&lt;概況&gt;

1月の大型小売店販売額は37,583百万円で、前年同月比 0.9%増となり、3か月ぶりに前年実績を上回った。

業態別にみると、スーパー（前年同月比 0.4%減）が12か月連続で前年実績を下回ったものの、百貨店（同 8.0%増）が4か月連続で前年実績を上回った。

商品別では、飲食料品（同 0.1%減）が7か月連続、家庭用品（同 2.4%減）が9か月連続で前年実績を下回ったものの、衣料品（同 4.8%増）が2か月ぶり、身の回り品（同 2.8%増）が8か月ぶりに前年実績を上回った。

なお、店舗数調整前の前年同月比は1.4%増と、6か月ぶりに前年実績を上回った。

&lt;最近の動き&gt;

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
販売額(百万円)	35,897	36,878	35,700	33,849	35,908	35,768	44,977	37,583
前年同月比(%)	▲1.8	▲0.1	▲6.2	▲2.1	0.8	▲0.1	▲0.3	0.9
うち百貨店(%)	2.4	1.0	▲17.5	▲8.5	7.8	9.1	5.9	8.0
スーパー(%)	▲2.6	▲0.3	▲4.7	▲1.1	▲0.5	▲1.9	▲1.8	▲0.4
(参考1)全国前年同月比(%)	▲2.2	1.3	▲4.7	▲1.3	0.9	1.4	1.4	2.6
うち百貨店(%)	▲1.6	4.6	▲11.3	▲4.2	3.0	8.1	8.9	15.4
スーパー(%)	▲2.5	0.2	▲3.0	▲0.3	0.1	▲1.1	▲1.6	▲1.0
(参考2)県前年同月比(店舗数調整前)	▲0.5	1.2	▲6.1	▲3.0	▲0.6	▲0.8	▲0.1	1.4

(注1) 販売額は店舗数未調整、前年同月比は店舗数調整済、全月速報値

&lt;資料&gt;経済産業省

(注2) 令和2年3月に調査事業者の見直しを行ったため、前年同月比の計算についてはリンク係数処理済み

&lt;商品別前年同月比の推移&gt;

(単位：%)

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
衣料品	▲13.2	3.8	▲22.6	▲10.4	0.8	3.1	▲3.5	4.8
うち紳士服・洋品	▲25.3	3.4	▲21.5	▲6.0	▲2.2	5.9	▲2.0	6.2
婦人・子供服・洋品	▲8.2	2.1	▲25.5	▲12.9	3.5	2.7	▲3.7	4.8
身の回り品	▲4.9	▲9.5	▲23.8	▲18.2	▲4.2	▲2.0	▲4.5	2.8
飲食料品	0.8	▲0.4	▲3.2	▲0.3	▲0.3	▲1.3	▲0.6	▲0.1
家庭用品	▲16.2	▲1.3	▲16.5	▲8.0	▲2.5	▲8.2	▲6.4	▲2.4
うち家庭用電気機械器具	▲20.9	▲6.9	▲25.0	▲13.2	▲4.3	▲17.0	▲14.8	▲7.4

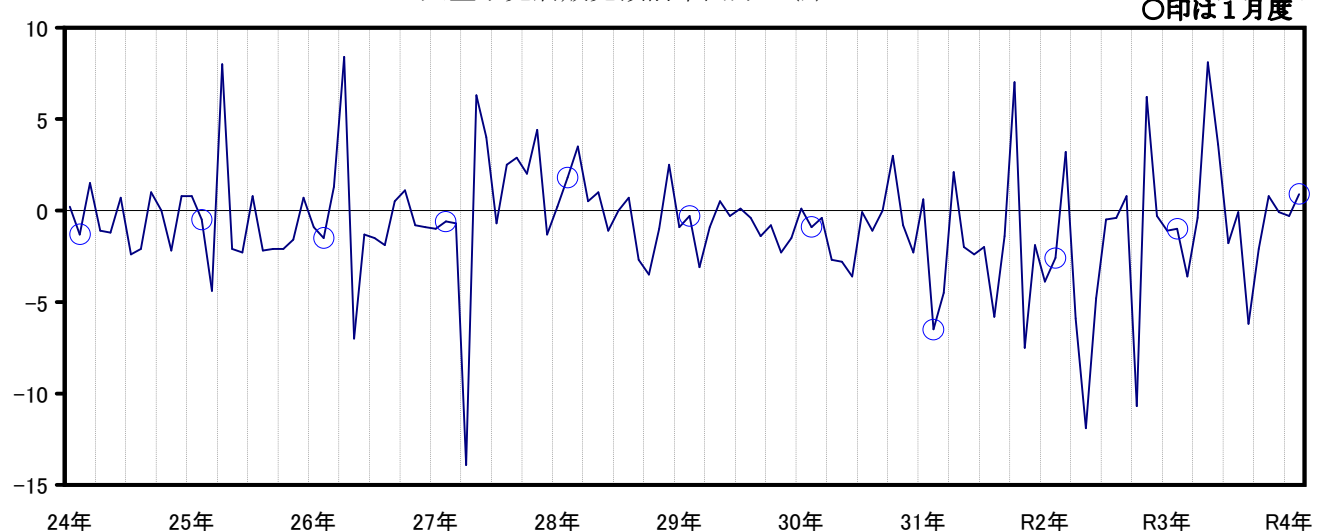
(注)店舗数調整済、全月速報値

&lt;資料&gt;経済産業省

&lt;過去10年間の推移&gt;

大型小売店販売額前年同月比(%)

&lt;資料&gt;経済産業省





## (2) 専門量販店等販売額

1月 = 72,289百万円

\*前年同月比：2.7%増

(県内92家電大型専門店、1,682コンビニエンスストア、553ドラッグストア、107ホームセンター合計)

### <概況>

1月の専門量販店等販売額は72,289百万円で、前年同月比2.7%増となり、3か月ぶりに前年実績を上回った。

業態別にみると、家電大型専門店（前年同月比5.2%減）が8か月連続、ホームセンター（同2.9%減）が12か月連続で前年実績を下回ったものの、コンビニエンスストア（同2.5%増）が2か月連続、ドラッグストア（同8.2%増）が9か月連続で前年実績を上回った。

### <最近の動き>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
販売額（百万円）	71,230	77,319	75,608	70,986	72,804	70,031	80,951	72,289
前年同月比（%）	▲3.3	2.0	▲5.9	0.4	1.1	▲3.6	▲0.8	2.7
うち 家電大型専門店（%）	▲22.7	▲9.4	▲22.5	▲7.0	▲2.1	▲11.2	▲12.3	▲5.2
コンビニエンスストア（%）	0.3	5.4	▲3.7	▲0.4	▲1.6	▲6.1	2.4	2.5
ドラッグストア（%）	4.4	5.0	4.1	5.8	6.5	3.4	3.4	8.2
ホームセンター（%）	▲10.8	▲2.1	▲18.8	▲4.0	▲1.6	▲6.1	▲6.9	▲2.9
(参考)全国前年同月比（%）	▲4.5	2.1	▲5.7	0.3	1.3	▲2.7	▲0.5	2.0

(注1) 販売額、前年同月比は店舗数未調整

<資料>経済産業省

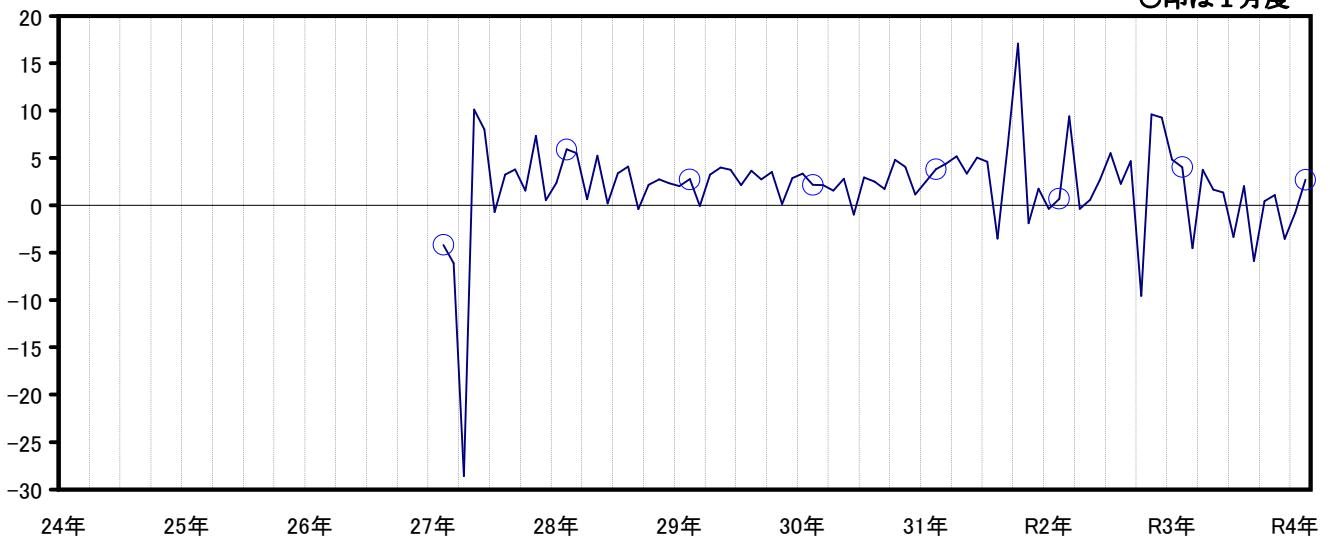
(注2) 平成28年7月からコンビニエンスストアの販売額を追加

### <過去10年間の推移>

専門量販店等販売額前年同月比（%）

<資料>経済産業省

○印は1月度



### (3) 自動車(新車)新規登録台数

1月 = 12,545 台

\*前年同月比： 15.1%減

(乗用車、軽自動車合計)

#### <概況>

1月の自動車(新車)新規登録台数は12,545台(前年同月比 15.1%減)と、7か月連続で前年実績を下回った。

車種別にみると、乗用車(前年同月比 16.3%減)が5か月連続、軽自動車(同 13.8%減)が7か月連続で前年実績を下回った。

#### <最近の動き>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
登録台数(台)	12,350	13,429	11,008	10,296	9,239	12,083	12,175	12,545
前年同月比(%)	5.0	▲ 3.2	▲ 3.7	▲ 37.8	▲ 35.6	▲ 15.7	▲ 12.1	▲ 15.1
(参考)全国前年同月比(%)	4.5	▲ 6.4	▲ 2.5	▲ 34.3	▲ 32.2	▲ 13.4	▲ 11.1	▲ 16.1

<資料>県税務課、日本自動車販売協会連合会

#### <車種別(新車)新規登録台数前年同月比の推移>

(単位：%)

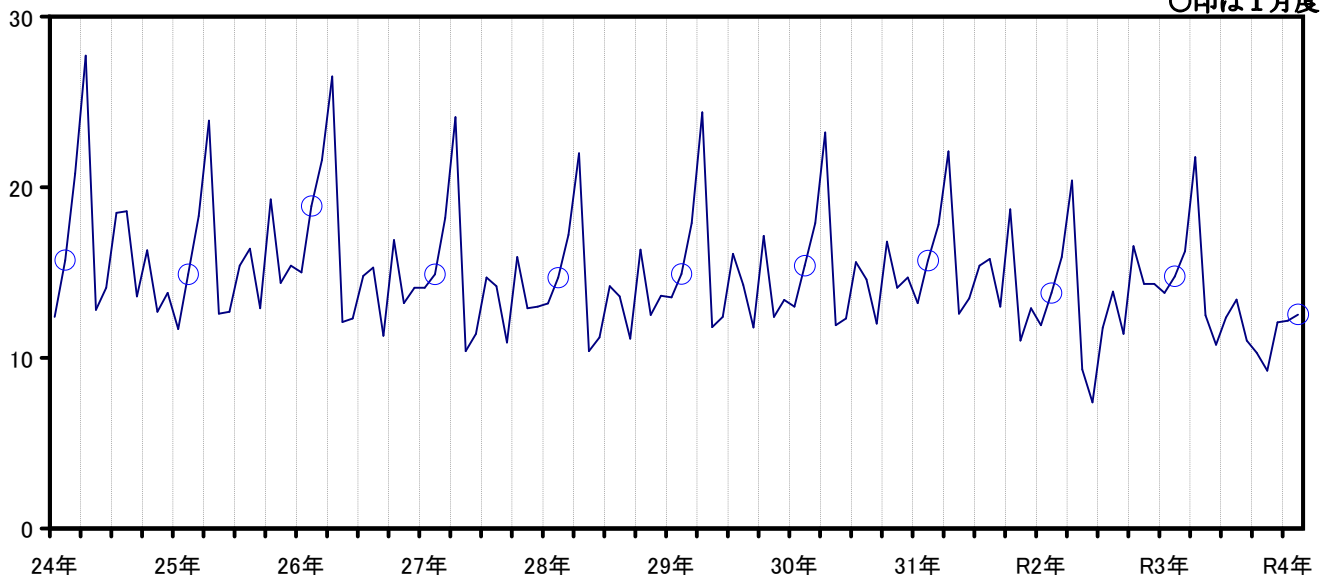
	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
全乗用車	5.0	▲ 3.2	▲ 3.7	▲ 37.8	▲ 35.6	▲ 15.7	▲ 12.1	▲ 15.1
乗用車	4.4	2.5	4.4	▲ 38.4	▲ 35.0	▲ 12.0	▲ 16.0	▲ 16.3
軽自動車	5.6	▲ 9.2	▲ 11.6	▲ 37.2	▲ 36.2	▲ 19.7	▲ 6.9	▲ 13.8

<資料>県税務課

#### <過去10年間の推移>

自動車(新車)新規登録台数(千台)

<資料>県税務課  
○印は1月度



(注) 全国前年同月比は乗用車+軽乗用車

## 2 新設住宅着工戸数

1月 = 1,301 戸

\*前年同月比： 21.9%減

### <概況>

1月の新設住宅着工戸数は1,301戸で、前年同月比 21.9%減と、2か月連続で前年実績を下回った。

利用関係別にみると、持家（前年同月比 21.1%減）が13か月ぶり、貸家（同 29.9%減）、分譲住宅（同 16.0%減）がいずれも2か月連続で前年実績を下回った。

### <最近の動き>

	R 3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月
戸数 (戸)	1,831	1,632	1,793	1,641	2,079	1,939	1,712	1,301
前年同月比 (%)	2.3	▲ 14.2	11.6	▲ 7.4	25.2	10.0	▲ 3.8	▲ 21.9
うち持家 (%)	7.0	5.2	20.8	2.4	17.0	24.1	0.0	▲ 21.1
貸家 (%)	4.9	▲ 31.1	6.0	▲ 30.3	71.7	8.4	▲ 12.6	▲ 29.9
分譲住宅 (%)	▲ 15.4	▲ 34.2	▲ 1.8	3.9	▲ 2.4	48.8	▲ 0.6	▲ 16.0
(参考)全国前年同月比 (%)	7.3	9.9	7.5	4.3	10.4	3.7	4.2	2.1

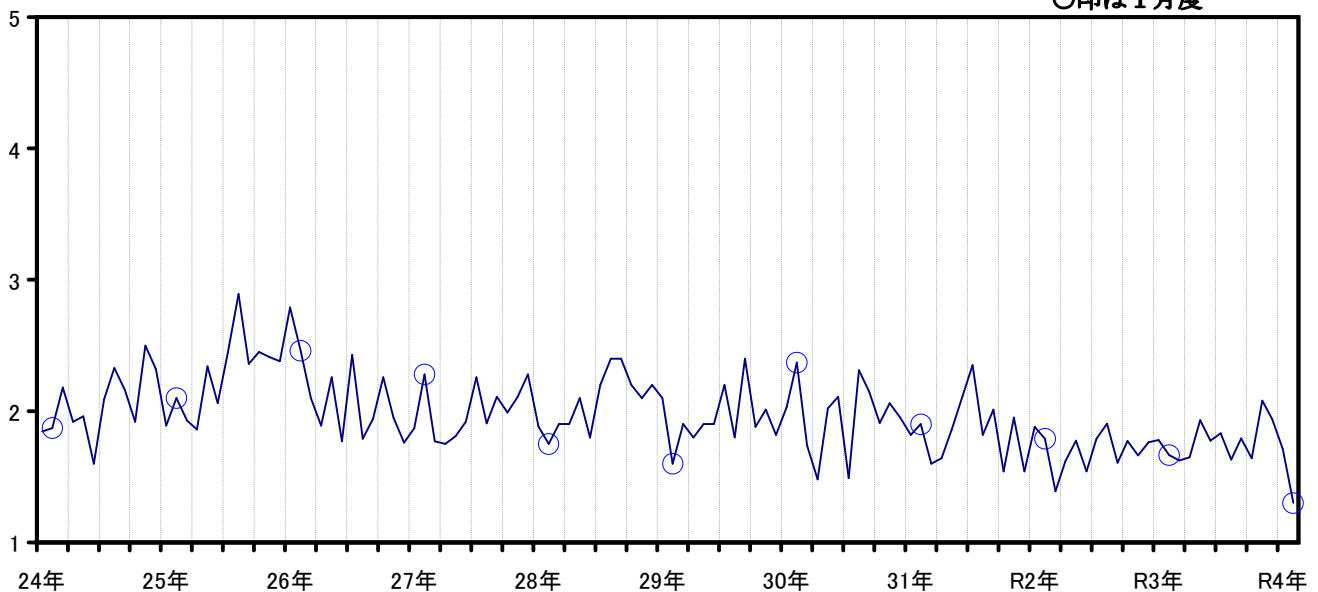
<資料>県住まいづくり課

### <過去10年間の推移>

新設住宅着工戸数(千戸)

<資料>県住まいづくり課

○印は1月度



### 3 公共工事請負金額

1月 = 13,879百万円

\*前年同月比：45.7%増

(建設保証会社保証実績)

#### <概況>

1月の公共工事の請負金額（工事場所ベース）は13,879百万円で、前年同月比45.7%増となり、2か月連続で前年実績を上回った。また、取扱い件数（工事場所ベース）は236件で、前年同月比6.7%減となり、7か月連続で前年実績を下回った。

#### <最近の動き>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
金額（百万円）	41,156	35,953	30,420	45,659	29,681	15,796	18,711	13,879
前年同月比（%）	▲33.3	▲12.8	▲18.3	▲14.1	35.7	▲12.0	20.5	45.7
年度累計前年同月比（%）	▲23.5	▲21.6	▲21.1	▲19.9	▲16.3	▲16.1	▲14.5	▲13.0
件数（件）	775	843	776	1,076	731	661	441	236
前年同月比（%）	6.6	▲1.6	▲0.8	▲15.5	▲6.8	▲0.5	▲13.7	▲6.7
年度累計前年同月比（%）	9.2	5.8	4.3	▲0.9	▲1.8	▲1.6	▲2.5	▲2.7

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

#### <発注者別請負金額前年同月比の推移>

(単位：%)

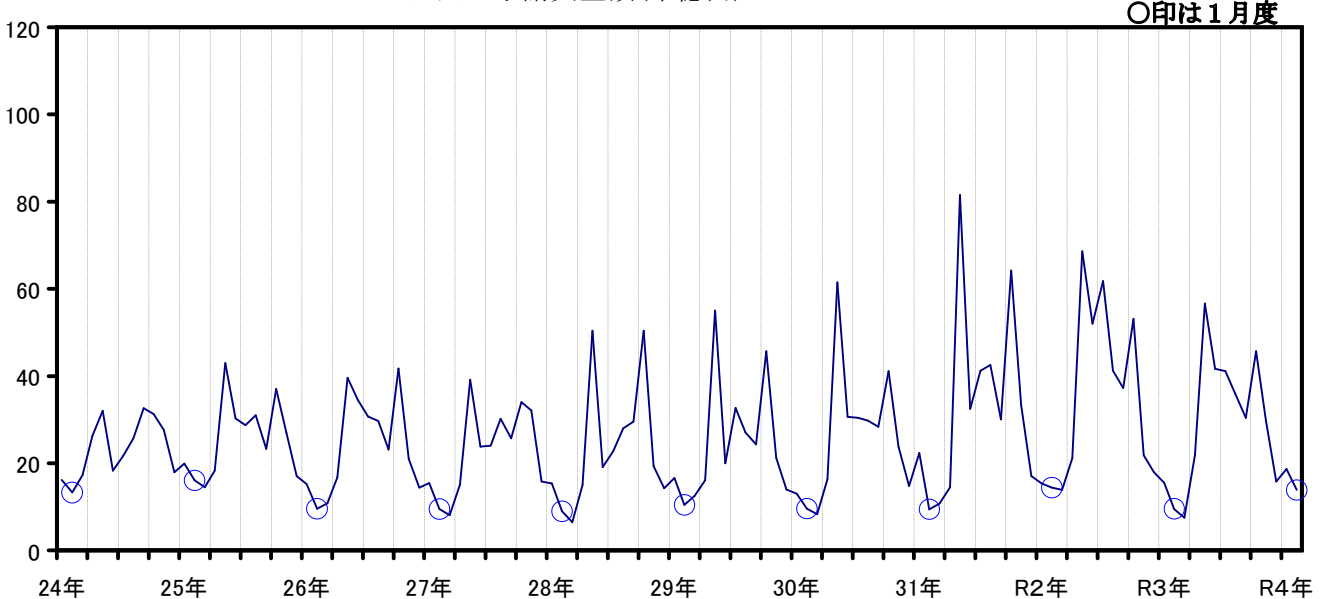
	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
国	▲9.3	▲9.1	▲29.5	▲2.7	2.6	▲41.5	▲59.4	14.6
独立行政法人等	▲72.3	▲49.2	▲82.3	35.8	199.7	▲71.2	299.4	72.3
県	11.6	14.5	1.8	▲17.2	5.8	▲7.3	▲0.5	9.4
市町	▲21.4	▲20.0	▲3.2	▲31.6	▲13.1	▲6.6	2.4	▲13.6
地方公社	-	▲23.3	1,120.6	▲62.7	▲70.6	▲96.2	-	-
その他	▲30.4	▲6.7	14.4	▲67.3	1,772.5	1,812.2	212.3	243.1

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店

#### <過去10年間の推移>

公共工事請負金額(十億円)

<資料>東日本建設業保証(株)静岡支店



## 4 設備投資

### <概況>

令和2年度の設備投資（含む土地投資）、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）は、製造業、非製造業、全産業においていずれも減少した。

令和3年度の設備投資（含む土地投資）は、製造業（前年度比 27.7%増）で増加、非製造業（同 4.4%減）で減少、全産業（同 10.5%増）で増加する計画となっている。また、ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）は、製造業（前年度比 20.8%増）で増加、非製造業（同 0.6%減）で減少、全産業（同 14.6%増）で増加する計画となっている。

1月の着工建築物床面積（非居住用）は94,343㎡で、前年同月比 34.6%増となり、6か月連続で前年実績を上回った。

### <企業短期経済観測調査結果>（前年度比% 設備投資（含む土地投資）

		R2年度 (実績)	R3年度 (計画)
全産業	県	▲10.8	(▲0.2) 10.5
	全国	▲8.5	(0.0) 7.9
製造業	県	▲17.2	(4.0) 27.7
	全国	▲10.0	(▲0.4) 11.6
非製造業	県	▲4.3	(▲4.7) ▲4.4
	全国	▲7.5	(0.2) 5.7

### （ ）内は前回調査比修正率) ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）

		R2年度 (実績)	R3年度 (計画)
全産業	県	▲7.6	(4.1) 14.6
	全国	▲8.5	(▲0.8) 8.5
製造業	県	▲8.3	(7.5) 20.8
	全国	▲7.7	(▲0.5) 9.5
非製造業	県	▲5.8	(▲4.8) ▲0.6
	全国	▲9.4	(▲1.0) 7.4

（注1）平成29年3月調査分から半期計数の掲載を取り止め、年度計数のみを掲載

（注2）平成29年3月調査分から「ソフトウェア・研究開発を含む設備投資（除く土地投資）」を追加

<資料>日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果（令和3年12月調査）」

日本銀行調査統計局「全国企業短期経済観測調査」（令和3年12月調査）」

### <最近の動き>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
着工建築物床面積（非居住用）（㎡）	114,873	108,318	135,765	110,714	129,560	107,330	125,604	94,343
前年同月比（%）	▲10.1	▲18.4	34.7	24.5	26.1	77.8	119.6	34.6
（参考）全国前年同月比（%）	12.6	5.9	▲14.6	▲4.9	46.6	10.9	33.1	▲3.8

（注3）着工建築物床面積は公共と民間の合計のうち、非居住用

<資料>国土交通省

### <参考 県内企業の業況判断D. I. >

		R3年9月	R3年12月	R4年3月 (予測)
全産業	全産業	▲5	2	0
	製造業	1	2	0
	非製造業	▲11	0	0
（参考）全国・全産業		▲2	2	0

（注4）業況判断D. I.：「良い」-「悪い」回答社数構成比%ポイント

<資料> 日本銀行静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果（令和3年12月調査）」

## 5 輸出

1月 = 157,933百万円

\*前年同月比： 6.3%減

(清水税関支署管内通関実績)

### <概況>

1月の清水税関支署管内の輸出総額は157,933百万円で、前年同月比 6.3%減となり、2か月連続で前年実績を下回った。

主要な品目別にみると、原動機（前年同月比 27.4%増）が2か月ぶり、二輪自動車類（同 49.4%増）が3か月連続、科学光学機器（同 13.7%増）が7か月連続で前年実績を上回ったものの、エアコン（同 30.8%減）が11か月ぶり、自動車（同 12.8%減）が8か月連続、自動車の部分品（同 3.0%減）が2か月連続で前年実績を下回った。

地域別にみると、米国向け（前年同月比 10.6%増）が4か月連続で前年実績を上回ったものの、アジア向け（同 19.2%減）が2か月連続、EU向け（同 3.2%減）が5か月連続で前年実績を下回った。

### <最近の動き>

	R 3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月
輸出総額(百万円)	217,026	215,432	192,201	212,554	193,150	192,523	198,268	157,933
前年同月比(%)	73.4	51.1	36.8	▲ 2.0	1.6	1.8	▲ 5.3	▲ 6.3

<資料>清水税関支署

### <主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	R 3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月
原動機	140.4	64.2	68.0	65.4	▲ 6.1	4.6	▲ 8.3	27.4
エアコン	90.9	65.3	20.4	18.7	7.1	5.8	11.8	▲ 30.8
自動車	▲ 41.6	▲ 41.5	▲ 39.2	▲ 46.1	▲ 31.8	▲ 28.3	▲ 10.3	▲ 12.8
自動車の部分品	103.2	109.5	51.3	47.4	9.6	25.0	▲ 11.7	▲ 3.0
二輪自動車類	211.1	83.3	115.3	11.9	▲ 17.7	7.1	4.8	49.4
科学光学機器	▲ 3.3	48.9	7.9	12.8	20.5	17.7	19.6	13.7

<資料>清水税関支署

### <地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

	R 3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月
アジア	70.2	50.2	33.4	23.1	▲ 2.3	5.3	▲ 0.7	▲ 19.2
米国	105.2	81.0	52.0	▲ 27.7	11.1	14.4	8.6	10.6
EU	49.8	4.8	31.4	▲ 11.7	▲ 3.0	▲ 20.1	▲ 31.3	▲ 3.2

<資料>清水税関支署

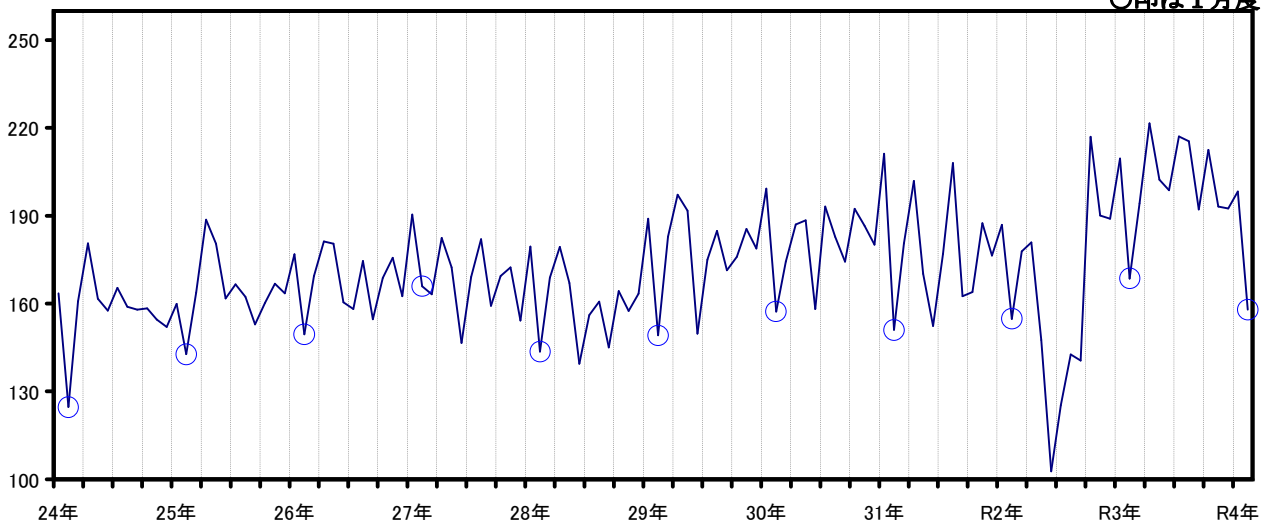
(注) 管内とは、清水港(焼津、沼津、浜松、興津の各出張所及び下田監視所含む)、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4つをいう。  
なお、数値は、通関手続きが行われた金額である。輸入も同様。

### <過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸出額(十億円)

<資料>清水税関支署

○印は1月度



## 6 輸入

1月 = 104,086百万円

\*前年同月比： 29.2%増

(清水税関支署管内通関実績)

### <概況>

1月の清水税関支署管内の輸入総額は104,086百万円で、前年同月比 29.2%増となり、12か月連続で前年実績を上回った。

主要な品目別にみると、魚介類及び同調製品（前年同月比 13.2%減）が7か月ぶり、自動車の部分品（同 47.6%減）が4か月連続で前年実績を下回ったものの、木材（同 79.1%増）が11か月連続、パルプ（同 63.6%増）が10か月連続、紙類及び同製品（同 18.4%増）が2か月連続、原動機（同 224.1%増）が12か月連続で前年実績を上回った。

地域別では、アジア向け（前年同月比 29.2%増）、米国向け（同 10.5%増）がいずれも3か月連続、EU向け（同 23.3%増）が7か月連続で前年実績を上回った。

### <最近の動き>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
輸入総額(百万円)	99,695	101,724	90,603	96,346	91,206	91,556	104,412	104,086
前年同月比(%)	33.5	41.1	28.5	33.2	1.7	6.3	27.3	29.2

### <主要品目別前年同月比の推移>

(単位:%)

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
魚介類及び同調製品	▲ 21.9	22.3	37.4	9.9	0.7	0.0	66.6	▲ 13.2
木材	8.1	24.8	72.5	169.4	49.0	40.4	85.6	79.1
パルプ	19.0	39.1	66.1	46.9	73.5	104.7	53.4	63.6
紙類及び同製品	▲ 14.5	▲ 18.4	26.8	13.3	▲ 27.3	▲ 25.3	21.4	18.4
原動機	44.8	86.4	110.2	47.8	29.2	54.4	14.2	224.1
自動車の部分品	136.0	54.6	47.0	50.1	▲ 2.0	▲ 21.3	▲ 5.3	▲ 47.6

<資料>清水税関支署

### <地域別前年同月比の推移>

(単位:%)

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
アジア	41.2	36.2	26.3	28.5	▲ 9.8	4.6	15.7	29.2
米国	1.3	42.8	▲ 1.8	50.5	▲ 5.7	4.4	25.6	10.5
EU	▲ 12.1	17.4	12.7	21.5	7.6	20.9	64.8	23.3

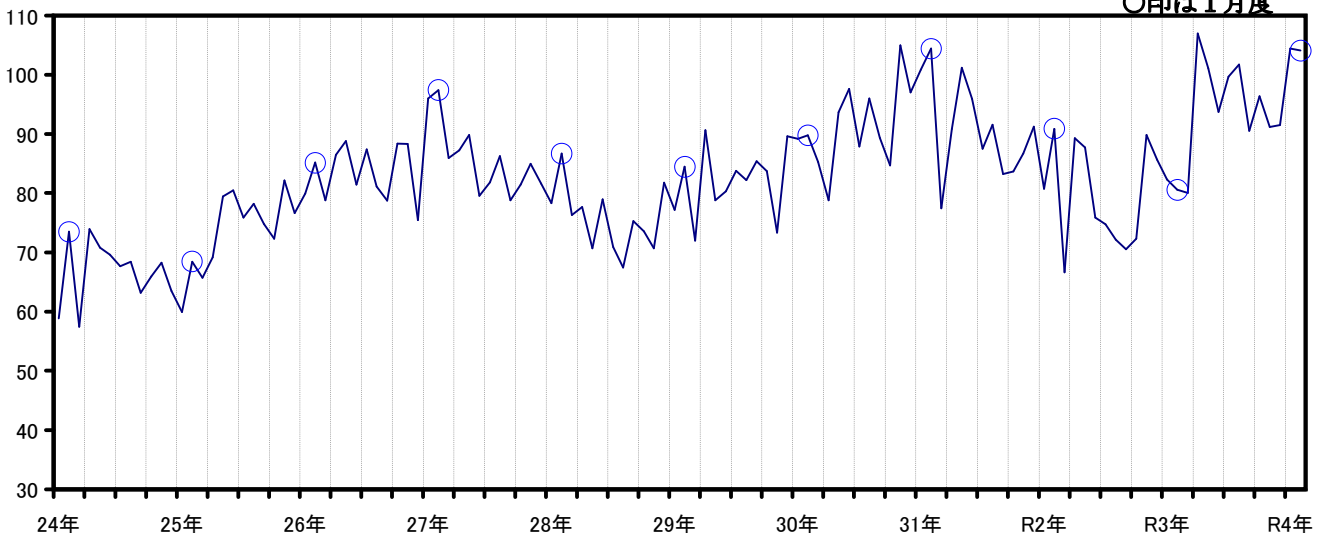
<資料>清水税関支署

### <過去10年間の推移>

清水税関支署管内通関実績輸入額(十億円)

<資料>清水税関支署

○印は1月度



# 生 産 面

## 1 生 産

### (1) 鉱工業生産指数

1 月 = 85.1

(平成27年=100、鉱工業総合、季節調整済指数)

\*前月比(季節調整済指数) : 1.6%減

\*前年同月比(原指数) : 8.6%減

#### <概況>

1月の鉱工業生産指数(総合)は85.1(季節調整済指数)で、前月比は1.6%減と、2か月連続で減少した。また、前年同月比(原指数)は8.6%減と、5か月連続で前年水準を下回った。業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比3.8%増)が2か月ぶり、化学(同6.4%増)が3か月連続、パルプ・紙・紙加工品(同1.8%増)が9か月連続、食料品・たばこ(同5.2%増)が6か月ぶりに前年水準を上回ったものの、電気機械(同9.7%減)が7か月連続、輸送機械(同26.3%減)が8か月連続で前年水準を下回った。

#### <最近の動き>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
指 数	93.9	90.3	90.2	82.3	86.1	88.7	86.5	85.1
前 月 比 (%)	3.5	▲ 3.8	▲ 0.1	▲ 8.8	4.6	3.0	▲ 2.5	▲ 1.6
前 年 同 月 比 (%)	8.7	▲ 1.3	0.1	▲ 11.1	▲ 9.6	▲ 1.7	▲ 6.4	▲ 8.6
(参考)全国前年同月比(%)	23.0	11.6	8.8	▲ 2.3	▲ 4.1	5.1	2.7	▲ 0.5

(注)平成27年=100、鉱工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

#### <県内業種別鉱工業生産指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
はん用・生産用・業務用機械工業	19.3	30.8	27.3	37.2	22.8	5.6	▲ 3.2	3.8
電 気 機 械 工 業	21.3	▲ 11.3	▲ 7.8	▲ 20.6	▲ 20.0	▲ 15.6	▲ 13.5	▲ 9.7
輸 送 機 械 工 業	▲ 3.9	▲ 16.1	▲ 12.0	▲ 33.0	▲ 21.6	▲ 6.3	▲ 11.7	▲ 26.3
化 学 工 業	4.4	1.7	3.7	1.1	▲ 2.5	9.5	1.0	6.4
パルプ・紙・紙加工品工業	3.2	5.6	6.8	2.3	0.4	3.3	2.0	1.8
食料品・たばこ工業	1.6	5.7	▲ 4.3	▲ 7.5	▲ 6.8	▲ 0.6	▲ 1.2	5.2

(注)平成27年=100、鉱工業総合、前年同月比:原指数

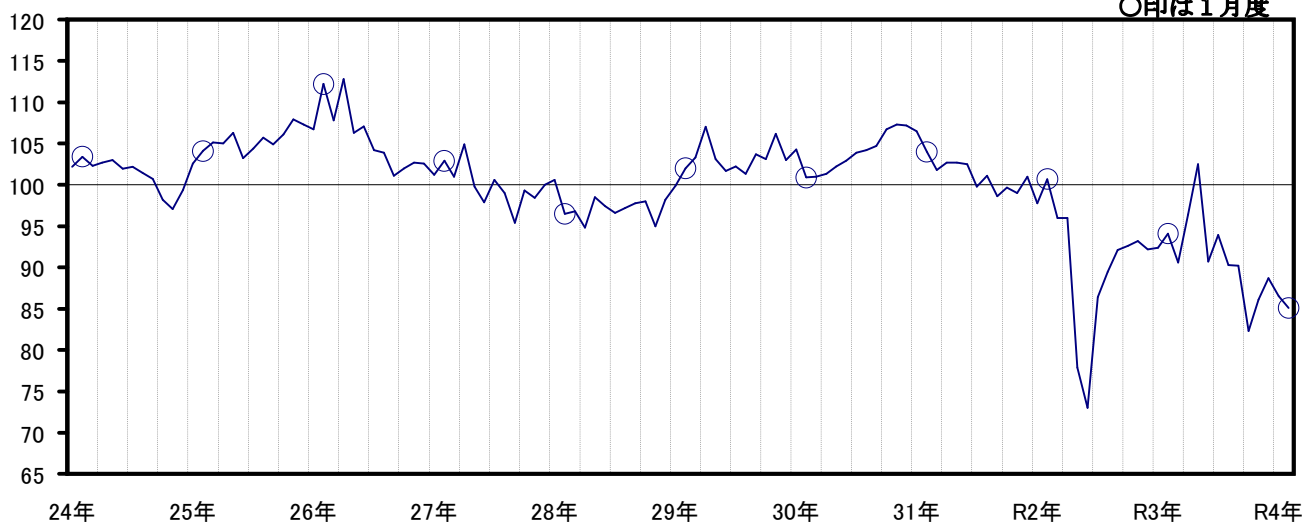
<資料>県統計調査課

#### <過去10年間の推移>

鉱工業生産指数(総合、平成27年=100)

<資料>県統計調査課

○印は1月度





## (2) 鋳工業在庫指数

1 月 = 99.9

(平成27年=100、鋳工業総合、季節調整済指数)

\* 前月比(季節調整済指数) : 1.2%減

\* 前年同月比(原指数) : 6.3%減

### <概況>

1月の鋳工業在庫指数(総合)は99.9(季節調整済指数)で、前月比は1.2%減と、4か月連続で下降した。また、前年同月比(原指数)は6.3%減と、2か月連続で前年水準を下回った。

なお、在庫動向を在庫循環図で見ると、今期は「在庫調整局面(景気後退期)」に該当する。業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前年同月比0.0%増)は前年と同水準、電気機械(同2.7%増)が4か月ぶりに前年水準を上回ったものの、輸送機械(同46.8%減)、パルプ・紙・紙加工品(同2.0%減)がいずれも8か月連続、化学(同6.1%減)が2か月ぶり、食料品・たばこ(同2.3%減)が2か月連続で前年水準を下回った。

### <最近の動き>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
指数	102.6	99.4	101.3	106.7	105.9	104.1	101.1	99.9
前月比(%)	0.4	▲3.1	1.9	5.3	▲0.7	▲1.7	▲2.9	▲1.2
前年同月比(%)	▲3.2	▲7.5	▲4.2	1.5	2.9	0.0	▲2.8	▲6.3
(参考)全国前年同月比(%)	▲5.0	▲4.5	▲3.7	0.5	2.2	5.6	5.0	4.6

(注)平成27年=100、鋳工業総合、指数:季節調整済、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課、経済産業省

### <県内業種別鋳工業在庫指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
はん用・生産用・業務用機械工業	▲10.1	▲10.9	▲2.6	2.3	2.3	1.4	1.8	0.0
電気機械工業	▲1.3	8.2	15.8	4.8	▲0.1	▲3.9	▲9.6	2.7
輸送機械工業	▲3.1	▲16.1	▲18.1	▲17.0	▲16.6	▲13.9	▲18.6	▲46.8
化学工業	▲9.3	▲7.8	▲8.2	3.6	5.4	▲5.6	1.6	▲6.1
パルプ・紙・紙加工品工業	▲5.2	▲2.4	▲5.4	▲5.3	▲3.8	▲5.1	▲4.2	▲2.0
食料品・たばこ工業	4.0	▲12.2	▲1.2	7.6	22.3	14.6	▲10.8	▲2.3

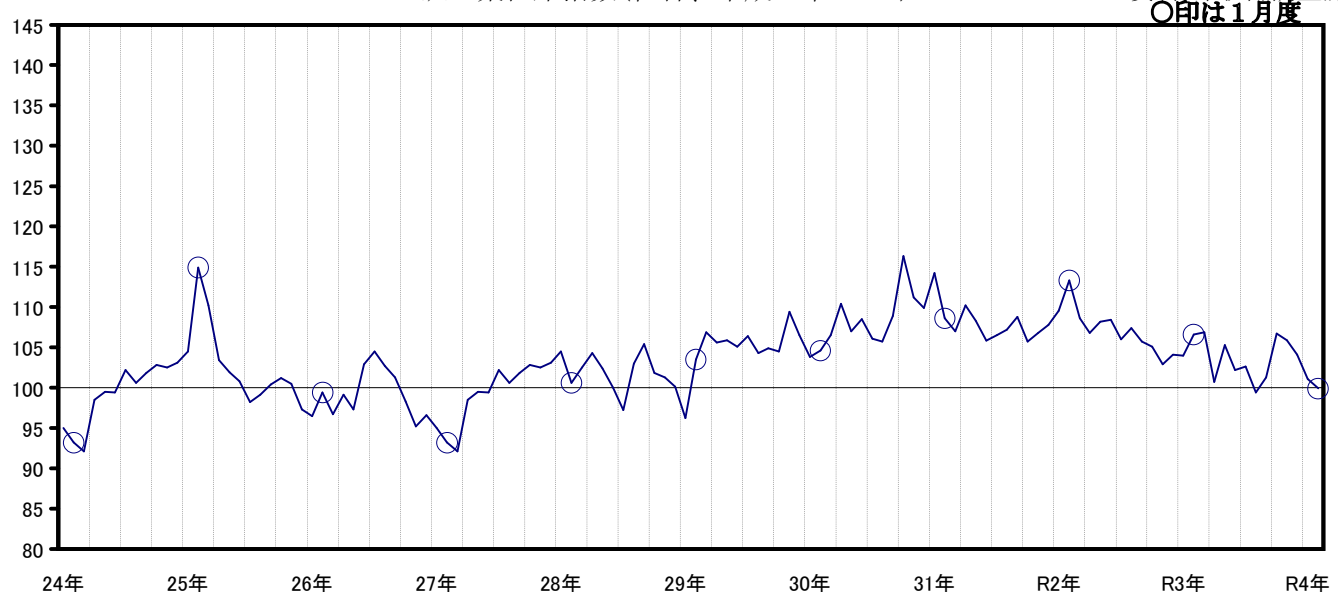
(注)平成27年=100、鋳工業総合、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

### <過去10年間の推移>

鋳工業在庫指数(総合、平成27年=100)

<資料>県統計調査課



# 雇 用 面

## 1 雇 用

### (1) 有効求人倍率

**1 月 = 1.18倍**

\*前月比 (季節調整値) : 0.04ポイント増

(季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む)

#### <概 況>

1月の有効求人倍率(季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む)は1.18倍となり、前月を0.04ポイント上回った。12か月連続で1倍台となった。また、3か月連続で全国値を下回った。新規求人(学卒、パートタイムを除く)(前年同月比17.1%増)は10か月連続で前年実績を上回った。

産業別にみると、建設業(前年同月比8.3%増)が16か月連続、製造業(同33.4%増)が12か月連続、情報通信業(同8.2%増)が4か月ぶり、運輸業・郵便業(同24.3%増)が2か月連続、卸売業・小売業(同25.7%増)が8か月連続、医療・福祉(同8.2%増)が11か月連続、サービス業(他に分類されないもの)(同24.7%増)が12か月連続で前年実績を上回った。

#### <最近の動き>

(単位:倍)

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
県	1.12	1.17	1.19	1.19	1.16	1.14	1.14	1.18
全 国	1.13	1.14	1.15	1.15	1.16	1.17	1.17	1.20

(注)季節調整値、学卒を除き、パートタイムを含む

<資料>厚生労働省

#### <産業別新規求人前年同月比の推移>

(単位:%)

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
建 設 業	7.5	7.4	14.7	6.7	1.5	8.8	4.7	8.3
製 造 業	49.8	60.5	81.3	41.2	40.1	52.3	48.7	33.4
情 報 通 信 業	▲1.0	▲0.5	19.5	17.6	▲5.0	▲4.3	▲5.5	8.2
運 輸 業 ・ 郵 便 業	▲3.8	24.9	0.1	29.2	18.5	▲9.2	33.1	24.3
卸 売 業 ・ 小 売 業	22.6	24.4	6.4	2.6	21.5	14.7	7.0	25.7
医 療 ・ 福 祉	9.1	11.4	12.9	3.1	7.5	20.8	17.6	8.2
サービス業(他に分類されないもの)	43.4	91.1	34.6	30.5	34.8	23.2	23.3	24.7
合 計	16.7	29.7	18.2	14.3	15.6	19.0	17.4	17.1

(注)学卒、パートタイムを除く

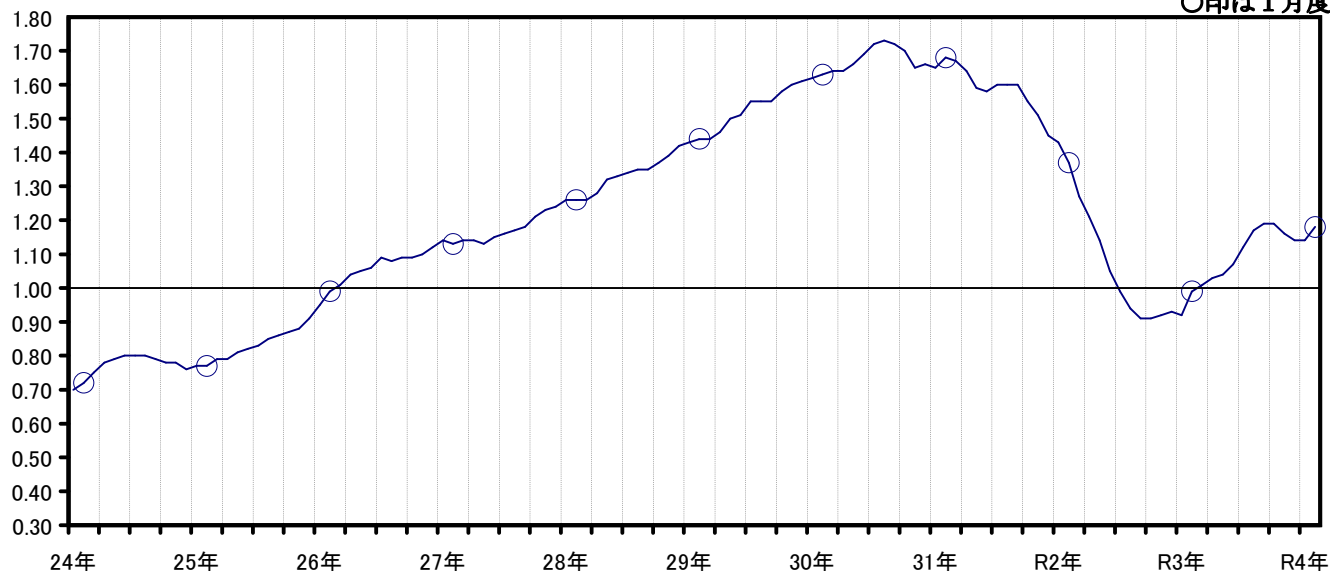
<資料>厚生労働省

#### <過去10年間の推移>

有効求人倍率(学卒を除き、パートタイムを含む)(倍)

<資料>厚生労働省

○印は1月度



(2) 雇用保険受給者実人員

1月 = 11,015人

\*前月比: 1.6%減

\*前年同月比: 17.5%減

<概況>

1月の雇用保険受給者実人員は11,015人で、前月比は1.6%減と、6か月連続で前月を下回った。また、前年同月比は17.5%減と8か月連続で前年実績を下回った。  
 完全失業率(全国)は2.8%と前月から0.1ポイント悪化した。  
 静岡県(令和3年10~12月)の完全失業率は2.3%で、前期(令和3年7~9月)から0.1ポイント改善した。

<最近の動き>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
実人員(人)	12,876	13,183	13,112	12,737	12,261	11,479	11,196	11,015
前月比(%)	6.6	2.4	▲0.5	▲2.9	▲3.7	▲6.4	▲2.5	▲1.6
前年同月比(%)	▲9.2	▲18.6	▲22.2	▲23.7	▲23.1	▲21.5	▲18.3	▲17.5
(参考)全国前年同月比(%)	▲1.8	▲9.0	▲11.6	▲16.0	▲18.1	▲13.2	▲13.0	▲11.6

<資料>厚生労働省

<参考 完全失業率(全国)の推移>

	R3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
完全失業率(全国)(%)	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.8	2.7	2.8

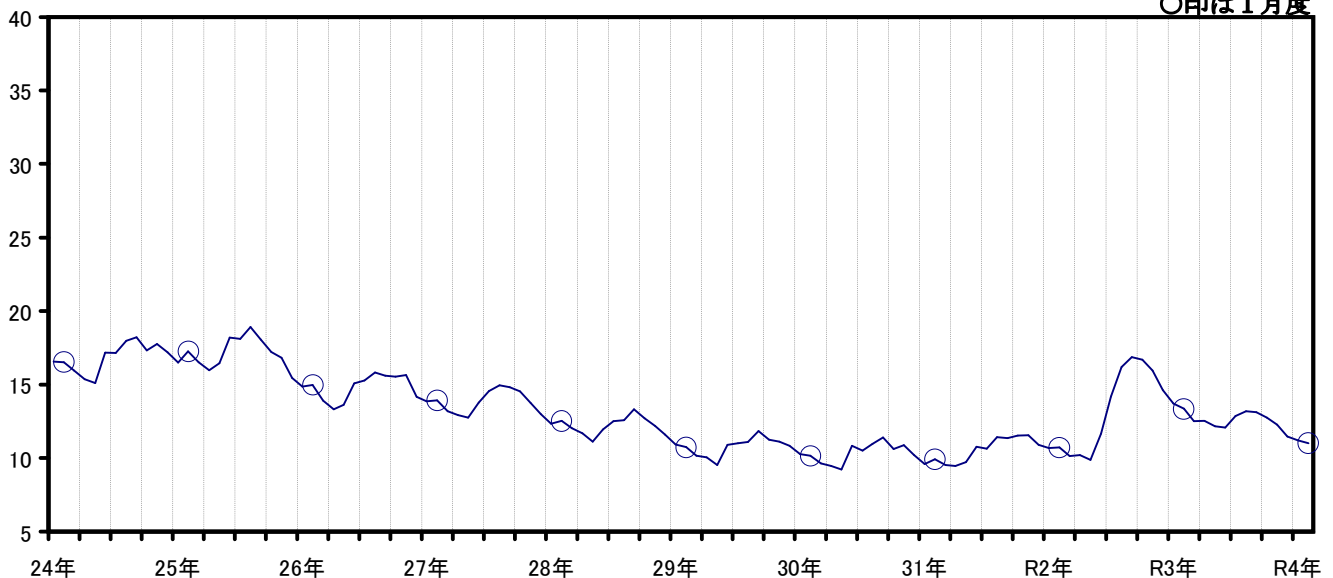
(注)季節調整値

<資料>総務省統計局

<過去10年間の推移>

雇用保険受給者実人員(千人)

<資料>厚生労働省  
○印は1月度



### (3) 所定外労働時間指数

12月 = 76.6

\*前月比(季節調整済指数): 4.2%増

(平成27年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、季節調整済) \*前年同月比(原指数) : 4.5%増

#### <概況>

12月の所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、調査産業計)は76.6(季節調整済指数)で、2か月ぶりに前月を上回った。また、前年同月比(原指数)は4.5%増と、2か月ぶりに前年実績を上回った。

業種別にみると、建設業(前年同月比 24.5%減)が2か月連続、情報通信業(同 11.8%減)が25か月連続、医療・福祉(同 5.7%減)が5か月連続で前年実績を下回ったものの、製造業(同 3.7%増)が3か月ぶり、運輸業・郵便業(同 34.6%増)が9か月連続、卸売業・小売業(同 29.2%増)が6か月連続、その他のサービス業(同 25.7%増)が13か月連続で前年実績を上回った。

#### <最近の動き>

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
指数	77.7	80.5	83.7	79.7	71.5	74.5	73.5	76.6
前月比(%)	▲5.4	3.6	4.0	▲4.8	▲10.3	4.2	▲1.3	4.2
前年同月比(%)	35.5	29.3	25.3	12.7	▲1.9	2.9	0.0	4.5
(参考)全国前年同月比(%)	28.9	22.6	15.5	10.2	5.7	3.5	6.1	7.0

\*平成27年=100、事業所規模30人以上、調査産業計、指数:季節調整済指数、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

#### <県内業種別所定外労働時間指数前年同月比の推移>

(単位:%)

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
建設業	39.4	13.6	▲10.9	▲15.5	▲28.8	57.8	▲3.6	▲24.5
製造業	73.6	39.2	39.1	22.8	0.9	▲3.7	▲8.7	3.7
情報通信業	▲19.8	▲27.2	▲34.6	▲8.0	▲8.5	▲10.2	▲31.9	▲11.8
運輸業・郵便業	18.7	51.2	33.1	31.0	15.8	21.0	30.2	34.6
卸売業・小売業	1.6	▲3.1	32.8	33.7	24.1	27.0	37.6	29.2
医療・福祉	▲9.2	▲7.1	5.1	▲10.1	▲13.7	▲10.0	▲12.5	▲5.7
その他のサービス業	87.0	80.3	60.4	41.2	41.2	31.5	36.0	25.7
調査産業計	35.5	29.3	25.3	12.7	▲1.9	2.9	0.0	4.5

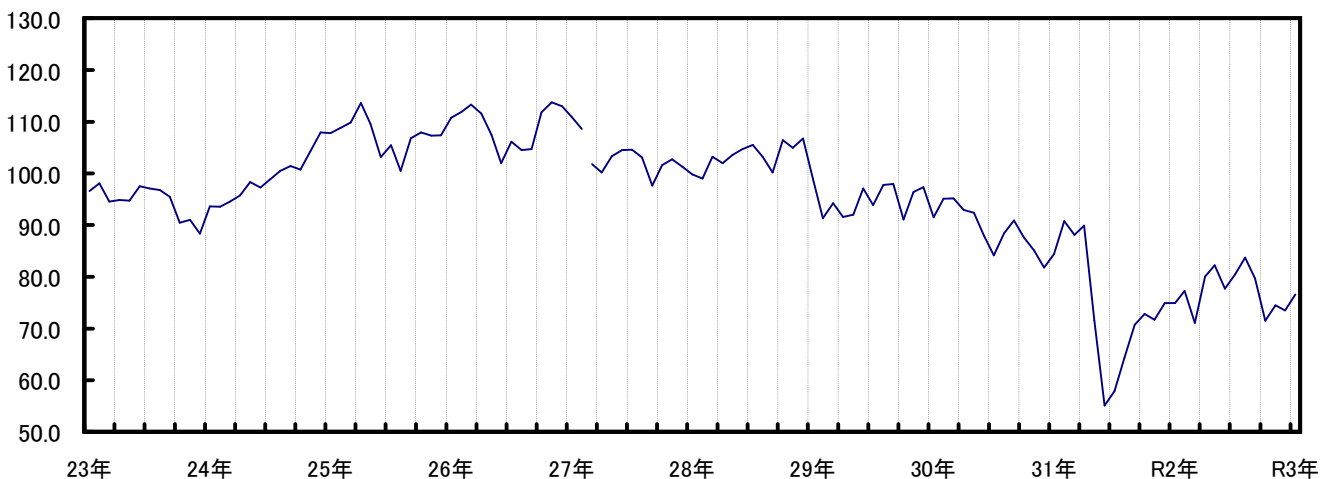
\*平成27年=100、事業所規模30人以上、前年同月比:原指数

<資料>県統計調査課

#### <過去10年間の推移>

所定外労働時間指数(事業所規模30人以上、平成27年=100)

<資料>県統計調査課



## そ の 他

### 1 物 価

#### 国内企業物価指数

2 月 = 110.7

\*前 月 比: 0.8%上昇

(平成27年=100)

\*前年同月比: 9.3%上昇

#### <概 況>

2月の国内企業物価指数は110.7となり、前月比は0.8%の上昇となった。また、前年同月比は9.3%の上昇となった。

	R 3年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月	2月
国内企業物価指数	106.4	106.6	107.0	108.5	109.1	109.1	109.9	110.7
前 月 比 (%)	1.1	0.2	0.4	1.5	0.6	0.0	0.8	0.8
前年同月比 (%)	5.8	5.9	6.5	8.4	9.2	8.7	8.9	9.3

\*平成27年=100

<資料>日本銀行

### 2 金 融

#### (1) 県内金融機関貸出残高

1 月 = 142,566億円

\*前 月 比: 0.6%減

(銀行、信用金庫)

\*前年同月比: 1.9%減

#### <概 況>

1月末の県内の銀行と信用金庫の貸出残高は142,566億円で、前月比は0.6%の減少となった。また、前年同月比は1.9%の減少となった。

	R 3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月
貸出残高(億円)	143,740	143,574	143,032	143,213	142,571	142,603	143,456	142,566
前 月 比 (%)	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.4	0.1	▲ 0.4	0.0	0.6	▲ 0.6
前年同月比 (%)	▲ 0.4	▲ 1.1	▲ 1.4	▲ 1.4	▲ 1.9	▲ 1.8	▲ 1.7	▲ 1.9

<資料>日本銀行静岡支店

#### (2) 貸出約定金利

1 月 = 1.370%

\*前 月 差: 0.003ポイント減

(県内地銀4行総平均)

\*前年同月差: 0.064ポイント減

#### <概 況>

1月の県内地銀4行総平均の貸出約定金利(総合)は1.370%で、前月から0.003ポイントのマイナスとなった。なお、前年同月差は0.064ポイントのマイナスとなった。

	R 3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月
貸出約定金利 (%)	1.409	1.406	1.403	1.396	1.394	1.384	1.373	1.370
前月差(ポイント)	▲ 0.007	▲ 0.003	▲ 0.003	▲ 0.007	▲ 0.002	▲ 0.010	▲ 0.011	▲ 0.003
前年同月差(ポイント)	▲ 0.056	▲ 0.057	▲ 0.057	▲ 0.057	▲ 0.054	▲ 0.062	▲ 0.062	▲ 0.064

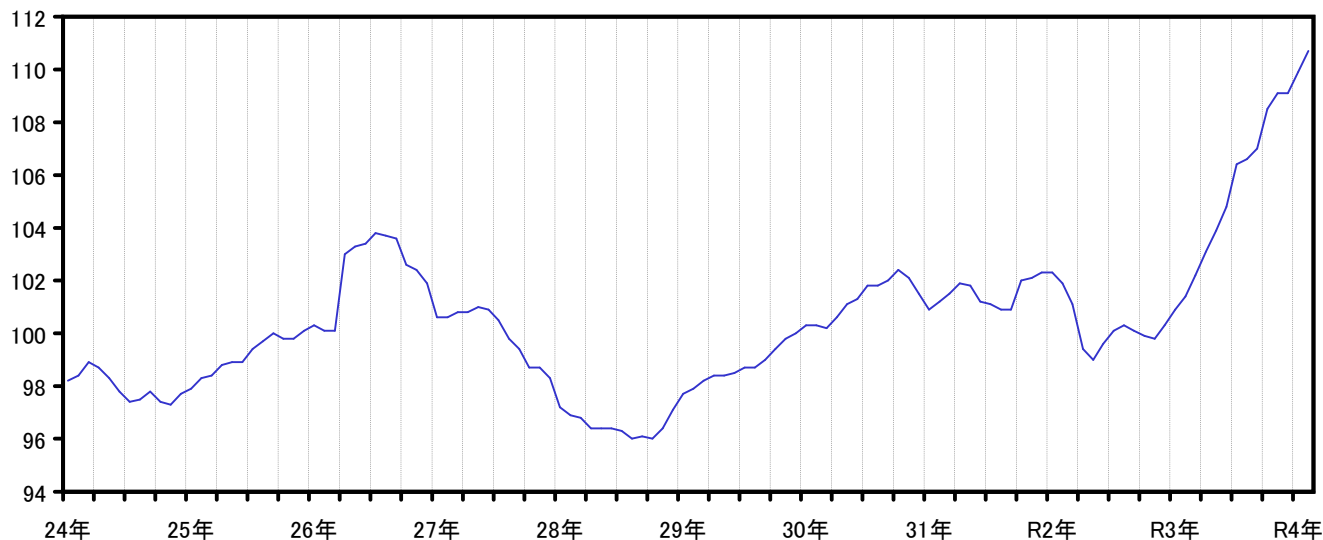
(注) 貸出約定金利は、金融庁報告ベースに過去に遡及して変更

<資料>日本銀行静岡支店

<過去10年間の推移>

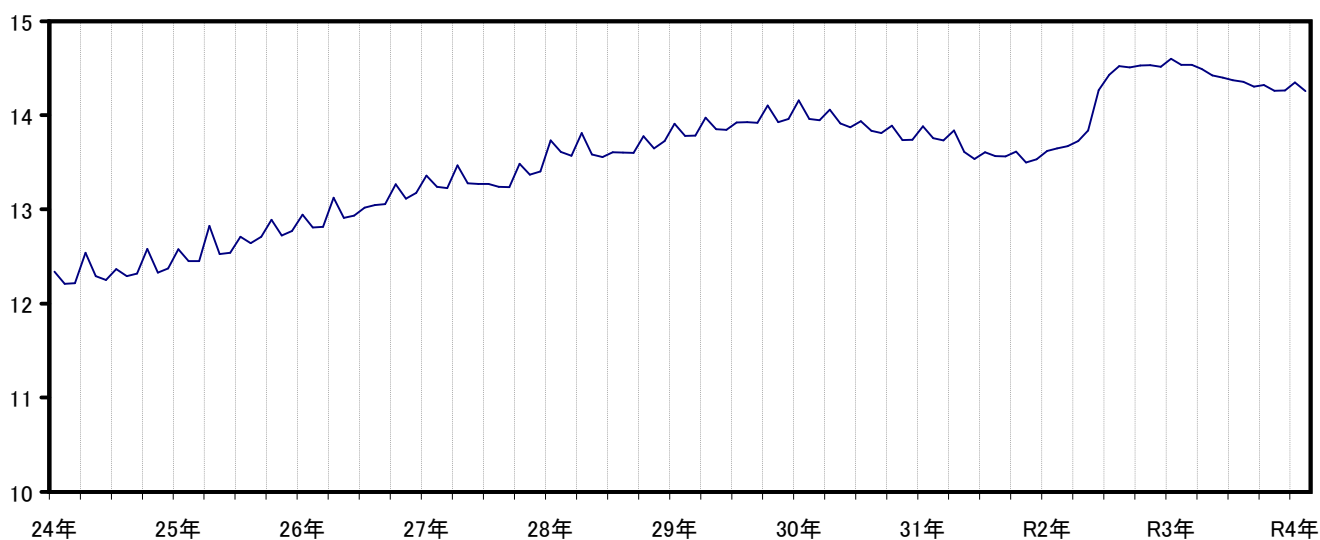
国内企業物価指数(平成27年=100)

<資料>日本銀行



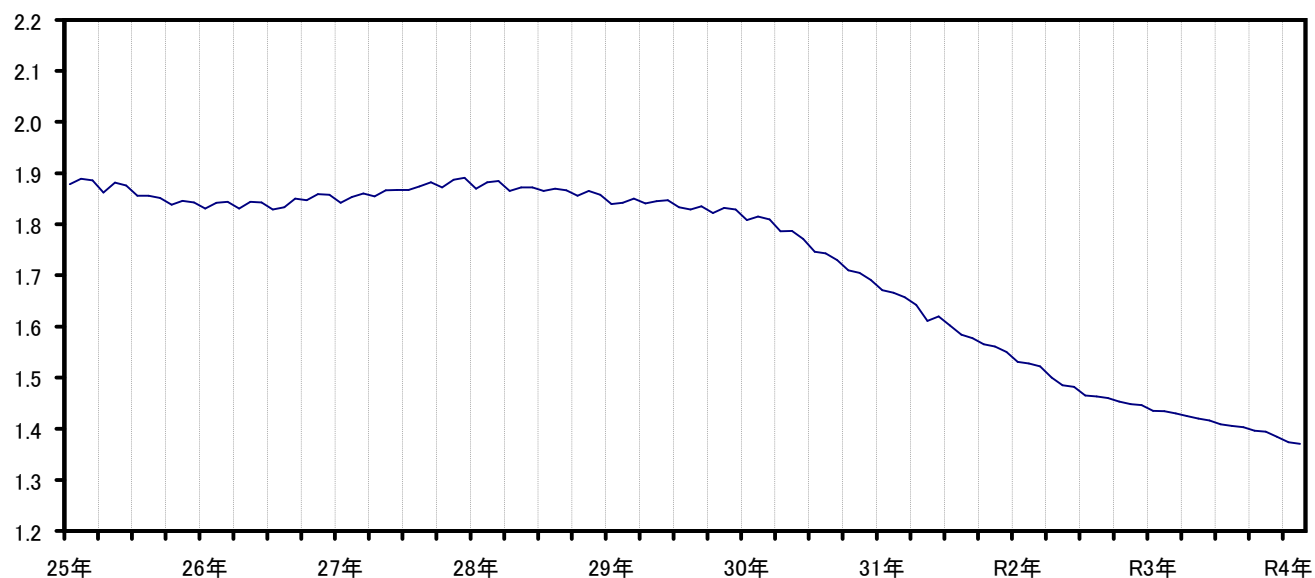
県内金融機関貸出残高(兆円)

<資料>日本銀行静岡支店



県内地銀平均貸出約定金利(%)

<資料>日本銀行静岡支店



**(3) 信用保証協会保証金額****1月 = 13,162百万円**

\*前年同月比： 44.8%増

## &lt;概況&gt;

1月の保証承諾は、金額は13,162百万円（前年同月比 44.8%増）、件数は1,279件（同 46.2%増）と、いずれも23か月連続で前年実績を上回った。

## &lt;最近の動き&gt;

	R 3年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月
保証金額（百万円）	14,632	14,174	15,609	16,487	14,839	18,311	24,407	13,162
前年同月比（%）	8.4	9.8	26.0	35.7	37.2	42.9	43.2	44.8
保証件数（件）	1,527	1,405	1,636	1,795	1,516	1,677	2,240	1,279
前年同月比（%）	12.6	13.6	34.1	46.8	43.5	46.4	42.9	46.2

&lt;資料&gt;県信用保証協会

**(4) 円相場****2月 = 115.20円/ドル**

\*前月差： 0.37円安

(東京・銀行間直物中心・平均)

\*前年同月差： 9.84円安

## &lt;概況&gt;

2月の東京外国為替市場での対ドル平均円相場（銀行間直物）は115.20円で、前月と比べて0.37円の円安となり、2か月連続で円安となった。

## &lt;最近の動き&gt;

	R 3年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月	2月
平均相場（円）	110.29	109.84	110.17	113.10	114.13	113.87	114.83	115.20
前月差（円）	0.18	▲ 0.45	0.33	2.93	1.03	▲ 0.26	0.96	0.37
前年同月差（円）	3.51	3.80	4.43	7.86	9.73	10.05	11.13	9.84

▲…円高

(注)東京外国為替相場・銀行間直物中心相場・平均

**3 企業経営****企業倒産件数****2月 = 7件**

\*前年同月比： 46.1%減

## &lt;概況&gt;

2月の負債総額 1,000万円以上の企業倒産は、件数は7件（前年同月比 46.1%減）、負債総額は746百万円（同 76.3%減）と、いずれも前年実績を下回った。

原因別にみると、販売不振を原因とするいわゆる「不況型倒産」が6件と全体の85.7%を占め、291か月連続して50%以上となっている。

## &lt;最近の動き&gt;

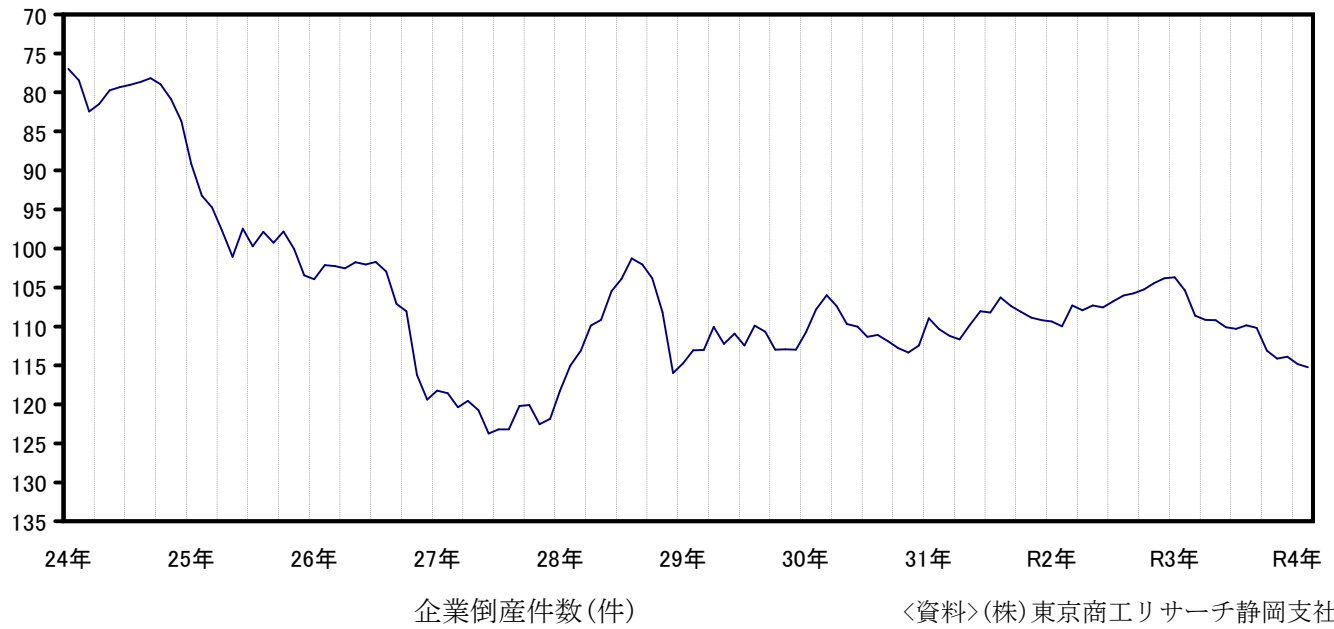
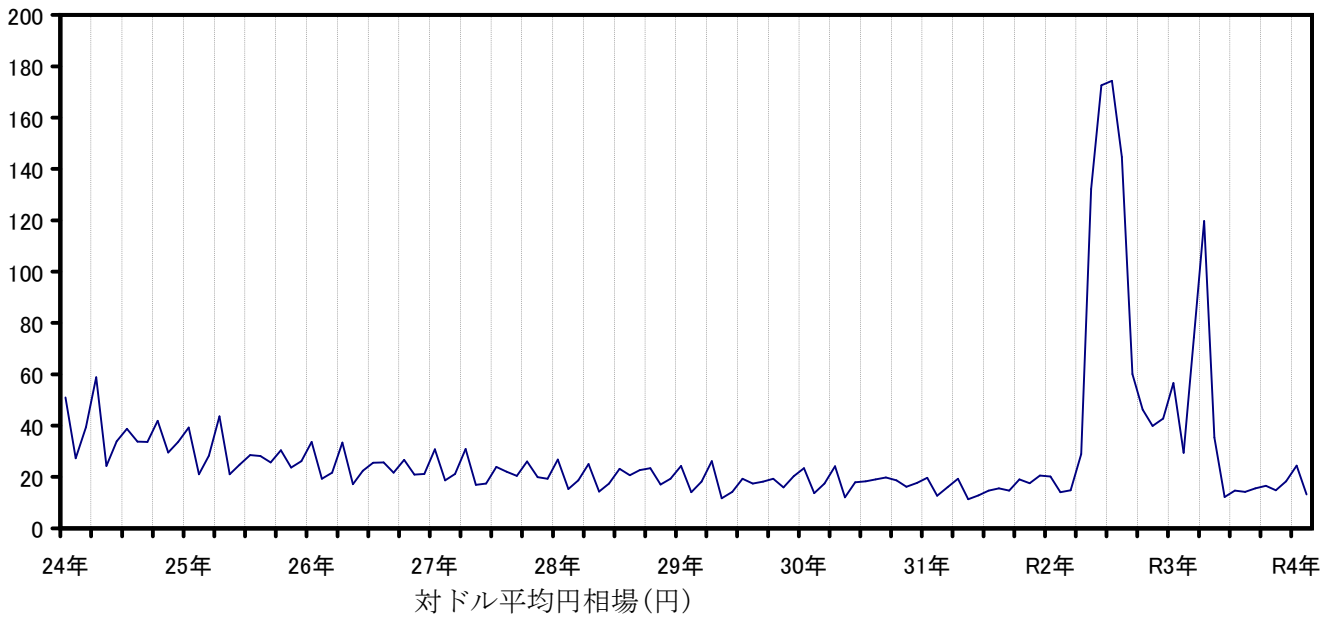
	R 3年7月	8月	9月	10月	11月	12月	R 4年1月	2月
倒産件数（件）	13	8	15	20	19	13	8	7
前年同月比（%）	▲ 18.7	▲ 42.8	15.3	81.8	18.7	▲ 31.5	▲ 46.6	▲ 46.1
うち不況型倒産件数(件)	12	4	15	14	16	13	8	6
負債総額（百万円）	1,263	835	1,037	22,541	1,191	1,278	1,799	746
前年同月比（%）	▲ 27.0	▲ 56.2	▲ 8.7	2,686.2	▲ 28.1	▲ 34.1	▲ 87.9	▲ 76.3

&lt;資料&gt;(株)東京商工リサーチ静岡支社

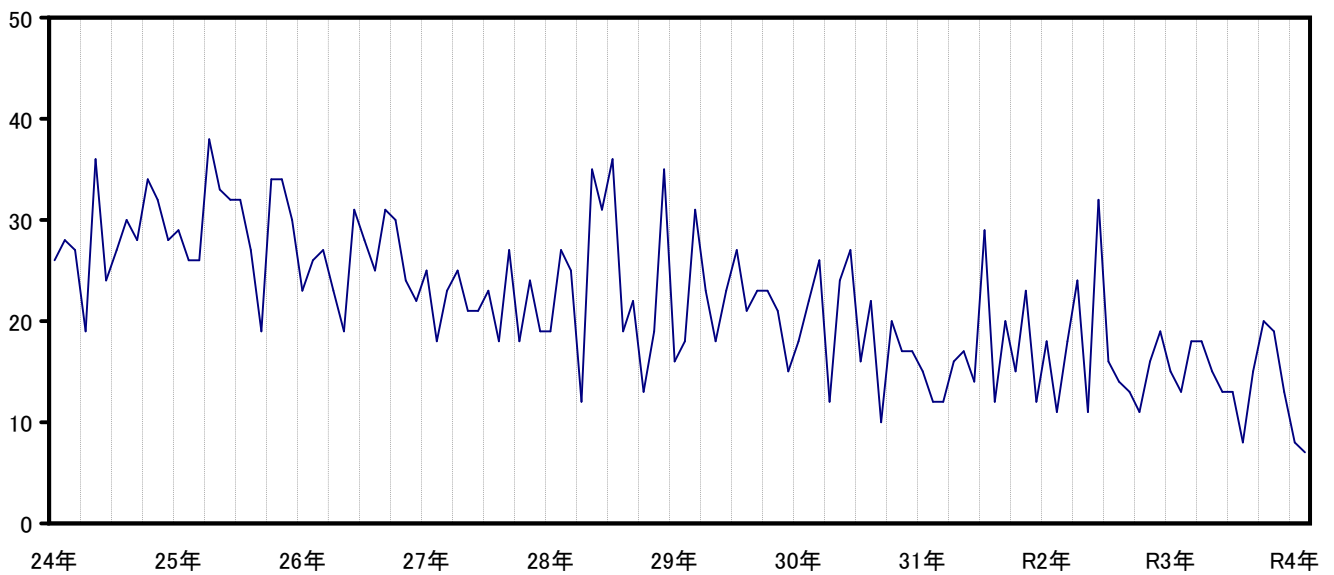
<過去10年間の推移>

信用保証協会保証承諾金額(十億円)

<資料>県信用保証協会



<資料>(株)東京商工リサーチ静岡支社





### Ⅲ 令和4年1月を中心とした静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車	<p>12月の国内二輪車生産台数は、55,986台（前年同月比 13.7%増）で、11か月連続で前年実績を上回った。原付第一種（50cc以下）は、9,928台（同 9.7%増）で、6か月連続で前年実績を上回った。原付第二種（51cc～125cc）は、2,689台（同 19.7%減）で、2か月連続で前年実績を下回った。軽二輪車（126cc～250cc）は、5,298台（同 11.8%増）で、5か月ぶりに前年実績を上回った。小型二輪車（251cc以上）は、38,071台（同 18.6%増）で、11か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>出荷台数は、国内向けは、28,201台（同 39.7%増）で、9か月連続で前年実績を上回った。輸出向けは、39,790台（同 4.8%増）で、11か月連続で前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車	<p>12月の自動車国内生産台数は、710,070台（前年同月比 5.5%減）と、5か月連続で前年実績を下回った。輸出は381,925台（同 3.0%増）と、5か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>国内生産は、トラックが2か月連続で前年実績を上回ったものの、乗用車が5か月連続で前年実績を下回ったことから、全体でも5か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電気機械	<p>1月の冷蔵庫の国内出荷額は291億円（前年同月比 0.6%増）で、3か月連続で前年実績を上回り、国内出荷台数は241千台（同 5.6%減）で、3か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>1月のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは490千台（同 9.5%減）で、8か月連続で前年実績を下回った。業務用は57千台（同 5.0%減）で、3か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>1月の携帯電話の国内出荷台数は、1,080千台（同 2.0%減）で、5か月連続で前年実績を下回った。うち、スマートフォンは、789千台（同 2.2%減）で、4か月連続で前年実績を下回った。単月のスマートフォン比率は73.1%であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、J E I T A / C I A J</p>
生産用機械	<p>1月の工作機械の受注総額は、1,429億1,800万円（前年同月比 61.3%増）で、15か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>内訳をみると、外需は987億4,900万円（同 58.7%増）で、15か月連続で前年実績を上回った。アジア向けが475億3,100万円（同 33.5%増）で、2か月ぶりに前年実績を上回った。内需は441億6,900万円（同 67.3%増）で、11か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>県内中小企業や関連団体からは、「原材料・光熱費の高騰により収益が圧迫されている。」「部材の遅延による仕掛の増加と材料費の値上げによる収益面への影響が出てきている。」「1月に入って、オミクロン株感染拡大により、複数の組合員で陽性者が出ており、今後の生産活動への影響が危惧される。」という声が聞かれた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会、静岡県中小企業団体中央会</p>

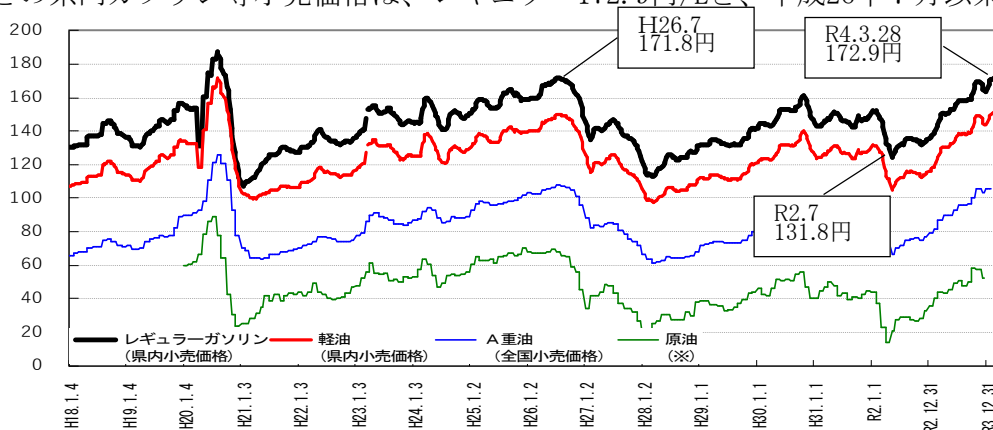
業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>1月の県内楽器メーカーの販売金額は、47億1,641万円（前年同月比 8.3%増）で、11か月連続で前年実績を上回った。内訳は輸出向けが26億1,686万円（同 27.4%増）で、国内向けが20億9,955万円（同 8.8%減）であった。</p> <p>ピアノ生産台数は3,011台（同 0.1%増）であった。機種別では、アップライトピアノが2,068台（同 0.5%増）、グランドピアノが943台（同 0.6%減）であった。また、販売台数は、輸出向けが2,066台（同 10.0%減）、国内向けが1,049台（同 8.4%増）であった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>1月の紙・板紙の国内出荷高は、1,729千ト（前年同月比 2.6%増）で、3か月連続で前年実績を上回った。内訳は、紙は874千ト（同 1.8%増）で、2か月ぶりに前年実績を上回った。板紙は854千ト（同 3.6%増）と、3か月連続で前年実績を上回った。</p> <p>品種別では、主力の印刷・情報用紙が、466千ト（同 2.8%増）で、4か月ぶりに前年実績を上回った。ティシュペーパー、トイレトペーパー等の家庭紙は、146千ト（同 3.2%増）と、9か月連続で前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会「紙・板紙需給速報」</p>
缶詰・飲料	<p>1月の県内生産量は、食缶類が国内向け883千箱（前年同月比 6.6%増）と2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は592千箱（同 4.7%増）と2か月ぶりに前年実績を上回った。うち主力であるツナ缶は351千箱（同 8.0%減）と、11か月連続で前年実績を下回った。</p> <p>農畜産缶（国内向け）は291千箱（同 10.7%増）と2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>飲料缶類は、国内向けが4,720千箱（同 1.3%増）と、2か月ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県缶詰協会</p>
織 維	<p>1月の広幅織物の県内生産は、747千㎡（前年同月比 5.1%減）で、7か月ぶりに前年実績を下回った。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、713千㎡（同 2.1%減）で、7か月ぶりに前年実績を下回った。別珍・コールテンの生産は、35千㎡（同 41.2%減）で、3か月ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>小幅織物の県内生産は、15千㎡（同 26.8%減）で、5か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>
家 具	<p>1月の全国百貨店での家具販売額は、34億1,304万円（前年同月比 6.8%増）と4か月連続で前年実績を上回った。また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、560億4,746万円（同 0.1%減）と9か月連続で前年実績を下回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会</p>

業 種	産 業 動 向
小 売 業	<p>1月の県内百貨店・スーパーの販売額は、37,583百万円（既存店前年同月比0.9%増）と前年実績を上回った。品目別に見ると、飲食料品、家庭用品が前年実績を下回ったものの、衣料品、身の回り品が前年実績を上回った。</p> <p>西部の百貨店への聞き取りによると、前年同月と比較して、売上げ及び来客数が増加した。衣料品、身の回り品、食料品を中心に月の前半は好調であったが、新型コロナウイルスオミクロン株の影響により、下旬以降は売上げ及び来客数が伸びなかった。</p> <p>中部の総合スーパーへの聞き取りによると、食料品を中心に来店時の買上げ点数が増加し、売上げと客単価が前年同月と比べて増加した反面、来客数が減少した。特に、年始の帰省等による食料品及び土産品の需要が伸びた。</p> <p>県内の食品スーパーへの聞き取りによると、前年の巣ごもり需要による食料品需要の反動減により、前年同月と比較して売上げ及び来客数が減少した。来店回数を減らしまとめ買いをする傾向は続いており、保存の効く食品がよく売れている。</p> <p style="text-align: right;">〈資料〉 関東経済産業局、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>令和4年1月の県内主要10観光施設の合計入込客数は約27万人で、前年同月比32.1%増となった。</p> <p>昨年度の1月7日から首都圏の都県に国の緊急事態宣言が適用されたことにより、移動制限が実施されたこともあり、昨年度の入込数よりも増加していると考えられる。</p> <p>主要有料道路（4路線※1）の合計通行車両数は、約52万台となり、前年同月比21.3%増となった。</p> <p>※1 令和元年10月から（遠州大橋（新掛塚橋）が令和元年9月28日から無料化されたため）。</p> <p style="text-align: right;">〈資料〉 静岡県観光政策課</p>

＜原油高の状況について＞

新型コロナウイルス感染症からの経済活動再開に伴う需要増大や、海外情勢の不安定化などにより原油価格が上昇。

足もとの県内ガソリン等小売価格は、レギュラー172.9円/Lと、平成26年7月以来の高水準。



○支援策（国・県）

出典：石油情報センター

資金繰り支援	原油価格上昇により粗利益が減少した事業者への県制度融資（県）
燃油価格補填	燃油価格が一定基準を上回った場合にその差額を補填（国） （対象：施設園芸農家、茶生産者、漁業者・養殖業者）
省エネ機器導入支援	茶の生産・加工関連の省エネ機械等のリース導入支援（国）
その他（国）	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガソリン平均価格が170円/Lを超えた場合、5円を上限に石油元売りに補助</li> <li>国家備蓄の一部（約400万バレル目安）を放出（米中等と協調し実施）</li> </ul>

## ＝ IVデータからみた県内主要産業 ＝

### <二輪車>

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
完成車生産台数(台)	16,652	22,864	22,599	20,832	17,275	16,733	27,103	25,792	21,054
前年同月比(%)	245.4	86.3	63.1	44.6	▲18.7	▲20.0	30.3	46.2	▲0.9
KD輸出額(百万円)	785	1,066	1,166	926	1,476	1,075	1,427	1,504	1,433
前年同月比(%)	2,321.4	102.8	126.7	82.9	124.4	▲17.8	24.4	▲5.4	2.5

### <楽器>

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
生産総額(百万円)	2,621	3,331	3,064	2,563	3,003	3,020	3,056	2,964	2,788
前年同月比(%)	131.9	56.5	31.8	42.4	28.3	4.6	8.6	4.1	29.2

### <缶詰>

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
食缶生産高(千ケース)	966	1,117	1,027	975	1,065	1,043	1,005	880	883
前年同月比(%)	▲12.6	▲2.4	▲3.3	▲5.2	▲4.7	▲2.4	0.4	▲8.3	6.6
うち水産缶詰(%)	▲16.0	▲7.9	▲5.4	▲7.1	▲11.2	▲2.6	0.5	▲4.2	4.7
農畜産缶詰(%)	▲2.8	13.4	2.0	▲0.2	13.0	▲2.0	0.1	▲16.9	10.7
飲料缶生産高(千ケース)	7,865	7,478	7,698	7,702	5,606	5,805	6,195	5,511	4,720
前年同月比(%)	12.6	4.0	▲9.2	5.0	▲13.7	▲7.2	3.6	▲9.8	1.3

### <繊維>

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
広幅織物(千㎡)	661	683	664	579	648	685	814	765	747
前年同月比(%)	▲12.5	▲6.7	0.2	0.4	1.2	2.8	3.5	5.0	▲5.1
小幅織物(千㎡)	15	16	14	13	13	14	13	14	15
前年同月比(%)	▲12.3	4.7	34.9	0.7	▲14.0	▲13.0	▲23.7	▲28.1	▲26.8

### <観光>

	R3年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4年1月
延べ宿泊者数 (千人泊)	1,096	908	1,355	1,636	901	1,203	1,500	1,695	1,299
前年同月比(%)	184.1	35.3	29.1	4.9	▲26.4	▲17.3	▲8.3	18.6	81.8
観光施設(10施設)入込 (千人)	430	217	251	267	89	390	442	309	272
前年同月比(%)	1,906.7	▲7.3	12.3	▲31.4	▲73.9	▲1.5	▲7.2	14.2	32.1
有料道路(4路線)通行量 (千台)	559	496	611	610	499	570	608	617	519
前年同月比(%)	77.1	18.1	25.0	▲11.2	▲10.4	▲0.5	▲1.1	10.2	21.3

## <特集>令和3年の静岡県経済を振り返って

### 1 令和3年の概況

#### “足踏み状態が続いた静岡県経済”

令和3年の静岡県経済は、設備投資、輸出、雇用に持ち直しの動きがみられた一方、年の後半にかけては、新型コロナウイルス感染症の再拡大や半導体を中心とした部品供給停滞等の影響を受けて、消費、生産が低迷したことから足踏み状態が続いた。

### 2 主要経済指標の動向

#### 消費の動向

#### ◎個人消費は、年の前半に緩やかに持ち直した後、年の後半は弱めの動きとなった。

令和3年の個人消費の動向をみると、大型小売店販売額は、年間を通じて概ね前年と同水準で推移し、年間合計では前年を上回った。専門量販店等販売額は、年間を通じて概ね前年と同水準で推移し、年間合計では前年を下回った。自動車(新車)新規登録台数は、6月までは前年を上回って推移したものの、7月以降は前年を下回って推移し、年間合計では前年を下回った。新設住宅着工戸数は、年間を通じて概ね前年を上回って推移し、年間合計でも前年を上回った。個人消費は、年の前半は緩やかに持ち直し、年の後半は弱めの動きとなっている。

#### (大型小売店販売額)

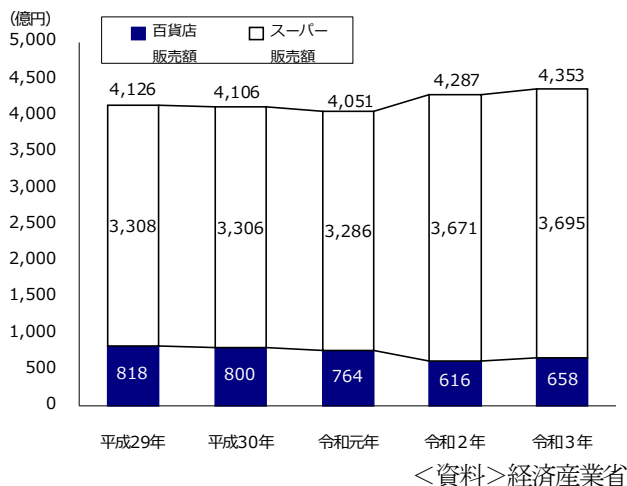
大型小売店販売額は、スーパー(全店前年比\* 0.8%減)と減少したものの、百貨店(同 6.7%増)が増加したことから、全体では4,353億円(同\* 0.3%増)と、7年ぶりに増加した。

※ 令和2年3月に調査対象事業所の見直しを行ったため、前年比の計算についてはリンク係数処理済み。

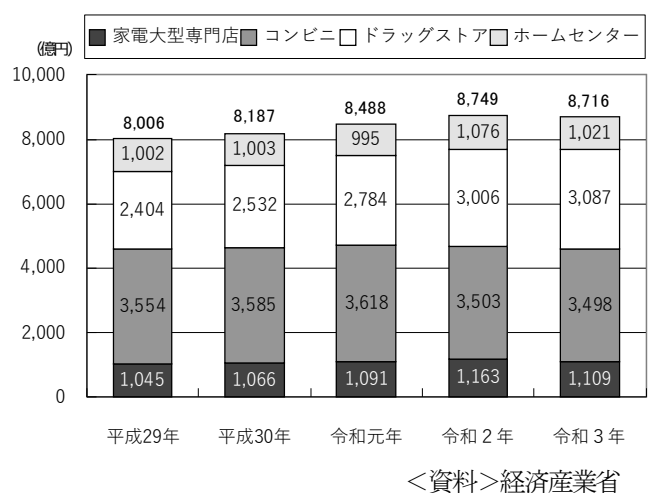
#### (専門量販店等販売額)

専門量販店等販売額は、ドラッグストア(前年比 2.7%増)が増加したものの、コンビニエンスストア(同 0.2%減)、家電大型専門店(同 4.6%減)、ホームセンター(同 5.1%減)が減少したことから、全体では8,716億円(同 0.4%減)と、6年ぶりに減少した。

#### ○大型小売店販売額の推移



#### ○専門量販店等販売額の推移



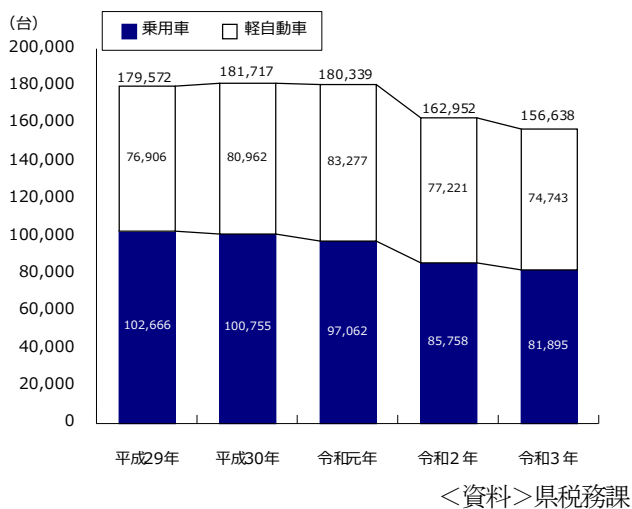
### (自動車(新車)新規登録台数)

自動車(新車)新規登録台数は、乗用車(前年比4.5%減)が4年連続、軽自動車(同3.2%減)が2年連続で減少したことから、全乗用車では156,638台(同3.9%減)と、3年連続で減少した。

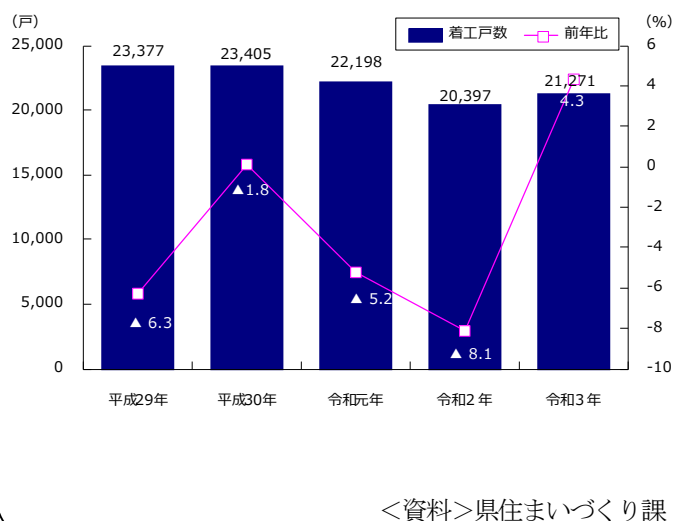
### (新設住宅着工戸数)

新設住宅着工戸数は、持家(前年比8.4%増)が2年ぶり、貸家(同3.0%増)が5年ぶり、分譲住宅(同1.3%増)が4年ぶりに増加したことから、合計では、21,271戸(同4.3%増)と、3年ぶりに増加した。

#### ○自動車(新車)登録台数の推移



#### ○新設住宅着工戸数の推移



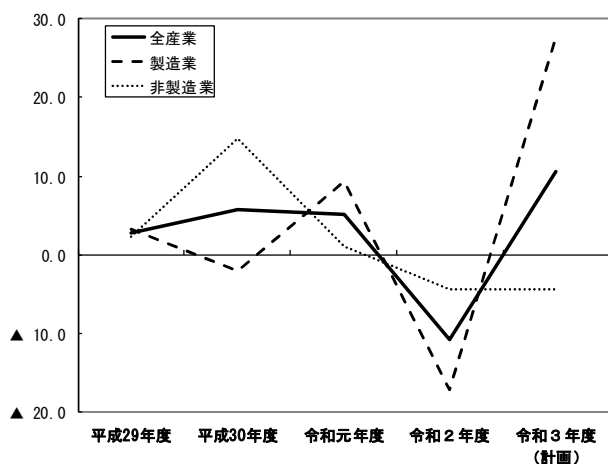
### ◎公共投資は請負金額、請負件数のいずれも前年を下回った。

公共投資は、請負金額は3,545億円(前年比15.3%減)と、6年ぶりに減少し、請負件数は7,457件(同4.6%減)と、2年ぶりに減少した。

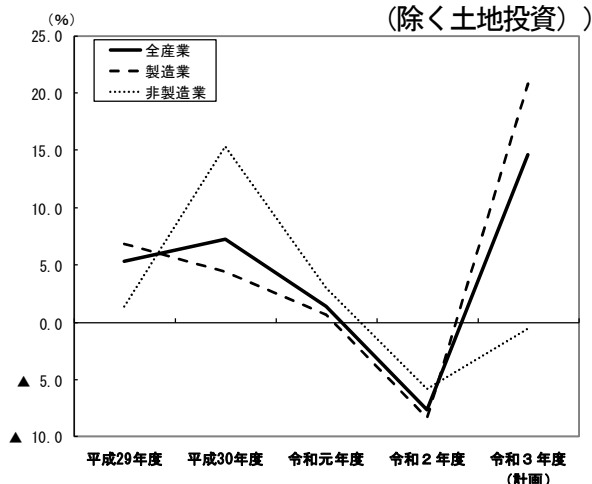
### ◎設備投資は増加の動きがみられた。

設備投資は、アフターコロナを見越して投資意欲が全体的に持ち直しつつあることから、増加の動きがみられる。令和3年度(計画)は、設備投資(含む土地投資)では、製造業で増加するものの、非製造業では減少する計画となっており、全産業では増加する計画となっている。ソフトウェア・研究開発を含む設備投資(除く土地投資)は、製造業で増加するものの、非製造業では減少する計画となっており、全産業では増加する計画となっている。(日本銀行 企業短期経済観測調査 令和3年12月調査)。

○静岡県の企業短期経済観測調査結果の推移  
(設備投資 (含む土地投資))



(ソフトウェア・研究開発を含む設備投資  
(除く土地投資))



<資料> 日本銀行静岡支店

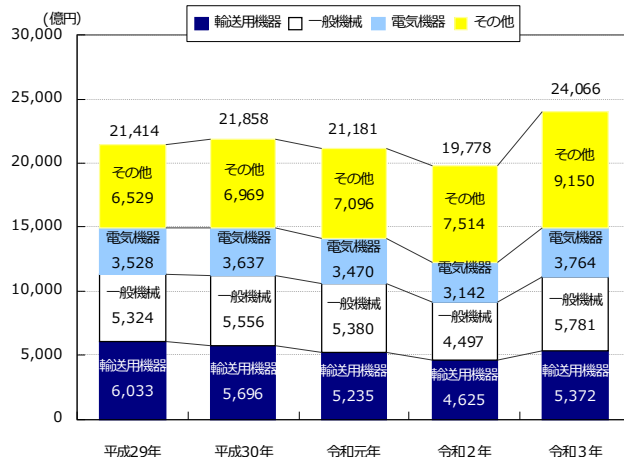
輸出入の動向

◎年の前半に大幅に増加した後、年の後半は横ばいとなった。

輸出は、8月までは前年を上回って推移した後、9月以降は前年と同水準となり、通年では2兆4,066億円 (前年比 21.7%増) と、3年ぶりに増加した。また、品目別では、主要品目である一般機械 (前年比 28.5%増)、電気機器 (同 19.8%増)、輸送用機器 (同 16.2%増) がいずれも増加した。

輸入は、1月を除き、前年を上回って推移し、輸入額は1兆1,379億円 (前年比 18.9%増) と、3年ぶりに増加した。

○輸出額の推移



<資料> 名古屋税関清水支署

生産の動向

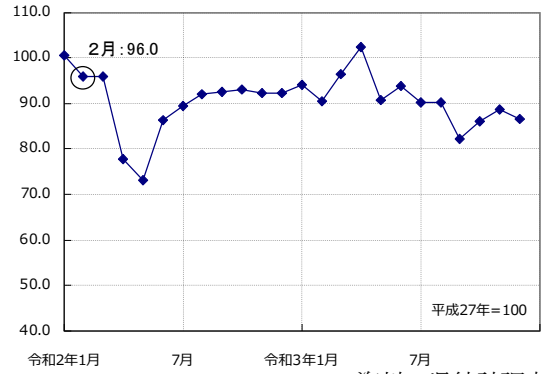
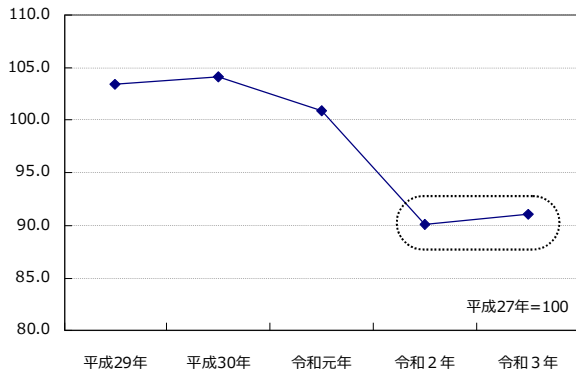
◎生産は、年の前半に持ち直した後、年の後半は弱めの動きとなった。

令和3年の生産の動向をみると、8月までは90.0を上回って推移したが、総じて新型コロナウイルス感染症拡大前の水準 (令和2年2月: 96.0) を下回る水準で推移した。

(鉱工業生産指数)

鉱工業生産指数のうち、季節調整済指数の年間平均は91.0、原指数の年間平均は91.1 (前年比 0.9%増) と、いずれも100を下回ったものの、3年ぶりに前年を上回った。主要な業種別の原指数の年間平均では、輸送機械 (前年比 3.3%減)、食料品・たばこ (同 3.0%減) が減少したものの、はん用・生産用・業務用機械 (同 11.5%増)、電気機械 (同 0.9%増)、化学 (同 0.3%増)、パルプ・紙・紙加工品 (同 1.4%増) が、増加した。

○鉱工業生産指数の推移（季節調整済 年別・月別）



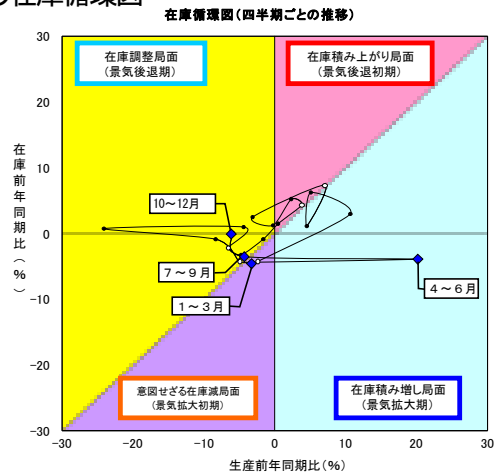
＜資料＞県統計調査課

（鉱工業在庫指数）

鉱工業在庫指数のうち、季節調整済指数の年間平均は103.6、原指数の年間平均は103.5（前年比 3.0%減）と、3年連続で減少し、9月から11月以外は全ての月において前年を下回って推移した。

なお、在庫循環図でみると、7月以降は「在庫調整局面（景気後退期）」に位置した。

○在庫循環図



＜資料＞県統計調査課

雇用の動向

◎雇用は、全体として厳しい状況にあるものの、改善の動きがみられた。

令和3年の雇用の動向をみると、有効求人倍率は、2月以降、1.0倍を上回って推移し、8月まで緩やかに上昇した。一方、7月から9月までを除いては、全国値を下回って推移した。

（有効求人倍率）

有効求人倍率は、8月まで上昇が続き、1.19倍となった。その後、上げ止まったものの、令和3年の年間有効求人倍率は1.10倍（前年比 0.06ポイント増）と、3年ぶりに上昇した。また、全国値を3年連続で下回った。

（雇用保険受給者実人員）

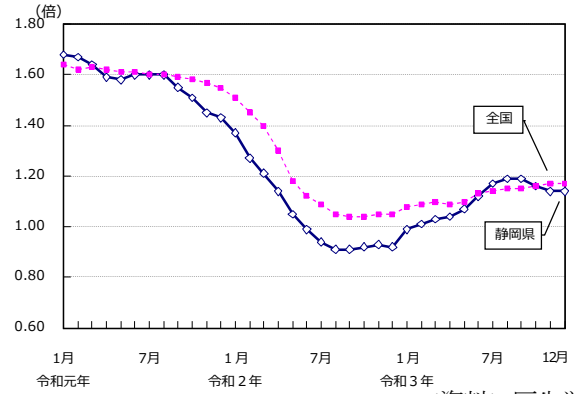
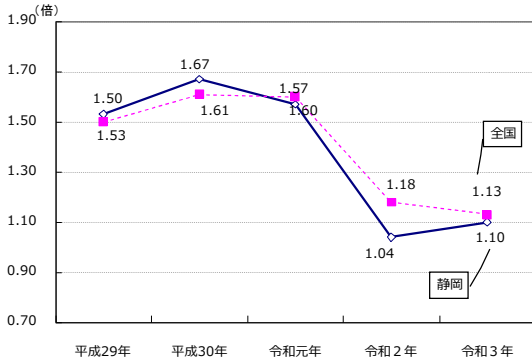
雇用保険受給者実人員は、6月以降は前年を下回って推移し、令和3年の合計雇用保険受給者実人員は149,452人（前年比 7.0%減）と、3年ぶりに減少した。

（所定外労働時間指数）

所定外労働時間指数は、年間を通じて70.0を上回って推移し、調査産業全体の平均は、77.4（前年比 5.2%増）と、4年ぶりに増加した。



### ○有効求人倍率の推移（年別、月別）



<資料>厚生労働省

## その他

### 【物 価】

国内企業物価指数（平成27年＝100）は、3月以降は前年を上回って推移し、令和3年平均は105.5（前年比 5.2%増）となり、前年を5.1ポイント上回った。

### 【金 融】

県内金融機関の貸出残高は、6月以降は前年を下回って推移し、12月末時点の貸出残高は1兆3,456億円（前年同月比 1.7%減）と、前年を2,541億円下回った。

県信用保証協会の保証承諾件数は31,846件（前年比 50.0%減）、金額は3,892億円（同 58.0%減）と、いずれも減少した。

### 【為 替】

円相場（対ドル平均）は、1月の103円70銭から年間を通じて円安傾向で推移し、12月には113円87銭となった。

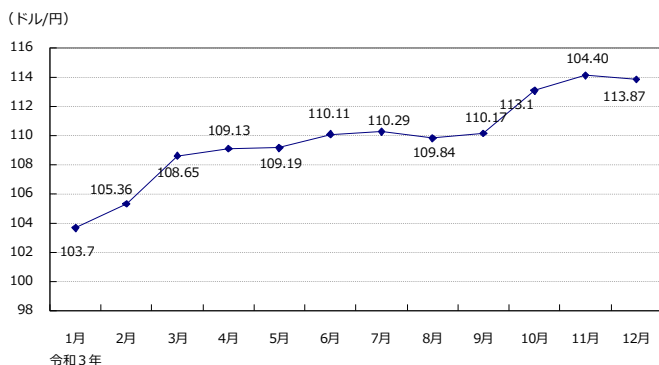
令和3年平均は109円80銭で、前年と比べて3円1銭の円安となった。

### 【企業倒産】

負債総額1,000万円以上の企業倒産件数は180件（前年比 23.0%減）となり、前年より23件減少した。負債総額は562億円（同 84.7%増）と、2年ぶりに増加した。

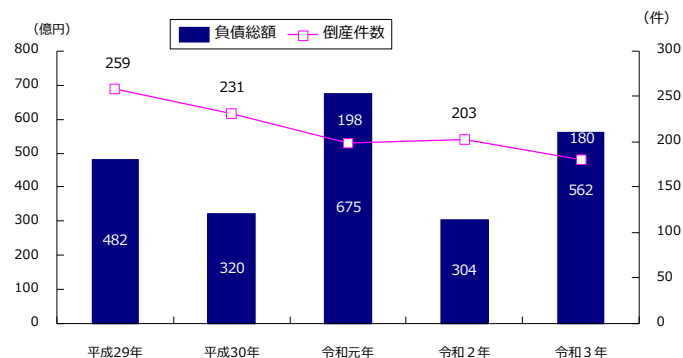
なお、コロナ関連破綻は44件となり、全体の24.4%を占めた。

### ○円相場の推移



<資料>日本銀行 東京為替相場

### ○企業倒産の動向



<資料>㈱東京商工リサーチ静岡支店

### Ⅲ 令和3年の静岡県主要産業の動向

業 種	産 業 動 向
二 輪 車	<p>令和3年の国内二輪車生産台数は、646,911台（前年比 33.5%増）で、3年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>出荷台数は、国内向け378,720台（同 15.3%増）で、4年ぶりに前年実績を上回った。輸出向けは437,042台（同 40.1%増）で、4年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>半導体といった二輪車部品の調達が滞るなど、依然として新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けた。</p> <p>二輪車の将来を考える官民一体の会議として平成25年9月に立ち上げられた「バイク・ラブ・フォーラム（略称B L F）」の第9回会議がオンラインで開催され、2030年を達成目標とした「ロードマップ2030」が発表された。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
自 動 車	<p>令和3年の自動車国内生産台数は、トラックは前年実績を上回ったものの、乗用車は前年実績を下回ったことから、全体でも7,846,958台（前年比 2.7%減）と、3年連続で前年実績を下回った。なお、輸出は3,818,910台（同 2.1%増）と、2年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本自動車工業会</p>
電 気 機 械	<p>令和3年の冷蔵庫の国内出荷台数は、3,778千台（前年比 2.2%減）で、2年連続で前年実績を下回った。冷蔵庫全体ではマイナスとなったものの、まとめ買いや内食（家庭での食事機会）の増加により大容量（501L以上）が好調であった。</p> <p>令和3年のエアコンの国内出荷台数は、家庭向けは9,373千台（同 5.0%減）で、6年ぶりに前年実績を下回った。1～5月は巣ごもり需要により前年比プラスを維持したが、6月以降は前年が好調だった反動と夏の天候不順の影響を受け、マイナスとなった。一方、業務用は828千台（同 1.2%増）で、2年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>令和3年の携帯電話の国内出荷台数は、13,740千台（同 5.2%増）と4年ぶりに前年実績を上回った。うち、スマートフォンは、10,413千台（同 6.3%増）で、単年のスマートフォン比率は75.8%であった。新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって部品調達や生産ライン停止による出荷への影響が見られた前年（2020年1-3月）から、2021年1-3月は生産が堅調に戻ったことや、通信事業者による3Gサービス終了に伴う巻き取り施策の効果等によりスマートフォンの需要が伸びた。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本電機工業会、日本冷凍空調工業会、J E I T A / C I A J</p>
生 産 用 機 械	<p>令和3年の工作機械の受注総額は、1兆5,414億円（前年比 70.9%増）と、3年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>内訳をみると、外需は1兆310億9,500万円（同 78.6%増）で、3年ぶりに前年実績を上回った。アジア向けが5,172億6,200万円（同 77.4%増）、欧州向けが2,106億9,700万円（同 118.8%増）、北米向けが2,824億7,300万円（同 58.0%増）であった。また、内需は5,103億2,400万円（同 57.3%増）で、3年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>2020年から引き続き中国市場が堅調に推移した上、経済活動の本格再開に伴って欧米や日本でも設備投資の動きが拡大し、3年ぶりに1兆5,000億円を上回った。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本工作機械工業会、静岡県中小企業団体中央会</p>

業 種	産 業 動 向
楽 器	<p>令和3年の県内楽器メーカーの販売金額は、601億3,046万円（前年比23.5%増）で、内訳は輸出向けが332億390万円（同25.9%増）、国内向けが269億2,656万円（同20.6%増）であった。</p> <p>ピアノ生産台数は39,977台（同24.5%増）で、2年ぶりに前年実績を上回った。機種別では、アップライトピアノが27,401台（同24.8%増）、グランドピアノが12,576台（同23.9%増）であった。また、販売台数は、輸出向けが31,199台（同24.5%増）、国内向けが12,455台（同21.8%増）であった。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、巣ごもり需要のあったギターやキーボードを除き、全般的に受注が減少していたが、令和3年度は、ピアノや電子ピアノ等の受注も回復傾向にある。しかし、生産稼働状況の停滞や半導体等の部材供給不足により、出荷が追い付かず、市場は長期品薄状況となっている。各社は、生産モデルを絞ったり、代替部品を開発するなど、市場への供給に苦心している。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県楽器製造協会</p>
紙	<p>令和3年の紙・板紙の国内出荷高は、21,932千ト（前年比2.3%増）で、8年ぶりに前年実績を上回った。</p> <p>内訳は、紙が10,753千ト（同0.5%増）で、8年ぶりに前年実績を上回り、板紙は11,179千ト（同4.2%増）と、3年ぶりに前年実績を上回った。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、リーマンショック直後を上回るマイナス幅を記録した前年に比べ、パッケージング用紙を中心に増加した。</p> <p>品種別では、ティシュペーパーやトイレットペーパー等の家庭紙は、1,791千ト（同1.4%減）と、2年連続で前年実績を下回った。コロナ禍による外出自粛の影響を受け、業務用トイレットペーパーの需要が低調に推移した。印刷・情報用紙は5,689千ト（同1.9%増）と8年ぶりに前年実績を上回った。イベントの制限が一定程度緩和されたことで、前年に比べ需要増となった。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞日本製紙連合会「紙・板紙需給速報」</p>
缶詰・飲料	<p>令和3年の県内生産量は、食缶類が国内向け11,895千箱（前年比3.9%減）と、4年ぶりに前年実績を下回った。</p> <p>分類別でみると、水産缶（国内向け）は8,128千箱（同6.5%減）、うち主力であるツナ缶も5,524千箱（同11.2%減）と、2年ぶりに前年実績を下回った。農畜産缶（国内向け）は3,767千箱（同2.1%増）と、2年ぶりに前年実績を上回った。飲料缶類は、国内向けが79,654千箱（同2.5%減）と、2年連続で前年実績を下回った。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、令和2年は、巣ごもり需要により水産缶の売上が増加したが、令和3年はその反動で減少した。業界では、積極的なPRによる需要の開拓や、新商品の開発等に取り組んでいる。</p> <p style="text-align: right;">＜資料＞静岡県缶詰協会</p>

業 種	産 業 動 向
織 維	<p>令和3年の広幅織物の県内生産は、8,453千㎡（前年比 17.6%減）であった。このうち、綿布が主体の一般広幅織物の生産は、7,729千㎡（同 18.7%減）であり、別珍・コールテンの生産は、724千㎡（同 3.1%減）であった。</p> <p>小幅織物の県内生産は、187千㎡（同 12.7%減）であった。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける中、令和3年度は受注回復の傾向が見られたものの、生地需要低迷と綿糸価格の高騰により、厳しい状況が続いている。産地では、自社商品の開発やECサイトへの出品、オンライン商談などに挑戦することで、新規需要・販路開拓を図り、生産量の回復に努めている。</p> <p>＜資料＞遠州織物工業協同組合、天龍社織物工業協同組合、浜松織物協同組合</p>
家 具	<p>令和3年の全国百貨店での家具販売額は、469億4,120万円（前年比 2.4%増）と2年ぶりに前年実績を上回った。また、大型量販店での家具・インテリアの販売額は、7,078億5,439万円（同 4.7%減）と2年連続で前年実績を下回った。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う巣ごもり需要を取り込み、収納整理用品やホームオフィス家具が売り上げを牽引し、ネット通販も大幅に拡大した。一方で、「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」適用地域では、外出が抑制され、家具・インテリア店の集客に影響したとみられる。家具業界全体としての売上は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が出る前の令和元年の水準には戻っていない。</p> <p>＜資料＞日本百貨店協会、日本チェーンストア協会</p>
小 売 業	<p>令和3年の県内の百貨店及びスーパーの売上高は、435,253百万円で、対前年比（全店）0.3%増となった。</p> <p>店舗種別に見ると、百貨店の売上高は、65,759百万円で、対前年比（全店）6.7%増となった。百貨店への聞き取りでは、紳士服、婦人服等衣料品は低調であったが、雑貨（美術・宝飾・貴金属）等、高単価の商品の売上げが伸びたことで、対前年比で売上増加となった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令等により、消費者が外出を自粛したことから大きな影響を受け、コロナ禍以前の水準には戻っていない。</p> <p>また、スーパーの売上高は、369,494百万円で、対全店前年比（全店）0.8%減となった。スーパーへの聞き取りでは、外食を控え、家で食事を作る消費者が多かった前年からの反動減によるものであるという見方が多く、また、野菜の相場安、精肉・鮮魚等の価格高騰など、消費者への安定した価格での商品供給が難しかった側面も見られた。</p> <p>そのほか、専門店等では、百貨店同様、衣料品の不調及び飲食料品、家具・家電等の好調が多く聞かれ、消費者の外出機会の減少による巣ごもり需要が続いている。</p> <p>＜資料＞経済産業省、静岡県地域産業課</p>
観 光	<p>令和3年の県内主要10観光施設の合計入込客数は約368万人と、前年比6.9%増だった。</p> <p>主要有料道路（4路線※）の合計通行車両数は、約655万台となり、前年比6.7%増だった。</p> <p>※遠州大橋（新掛塚橋）が令和元年9月28日から無料化されたことに伴い、令和元年10月から対象が5路線から4路線へと減少</p> <p>＜資料＞静岡県観光政策課</p>

静岡県月例経済報告判断一覧

中心月	発行号	まん防、緊急事態宣言	出来事	景気	先行き	個人消費	設備投資	輸出	生産	雇用情勢
2021年1月	2021年3月	まん防、緊急事態宣言(1/8-3/21)	新型コロナ第3波による感染拡大	新型コロナウィルス感染症の影響により厳しい状況にあるものの、 <b>持ち直しの動きがみられる</b>	経済活動の再開が進むにつれて、持ち直しの動きが速くことが期待されるが、新型コロナウィルス感染症の動向に、十分注意する必要がある。	緩やかに持ち直している	下げ止まりつつある		持ち直しつつある	厳しい状況にある
2021年2月	2021年4月	首都圏等に緊急事態宣言(1/8-3/21)			経済活動の再開が進むにつれて、持ち直しの動きが速くことが期待されるが、新型コロナウィルス感染症による下振れリスクに十分注意する必要がある。					全体として、厳しい状況にある
2021年3月	2021年5月		県GoTo再開(3/8) 県GoTo再開(3/19)		経済活動の再開が進むにつれて、持ち直しの動きが速くことが期待されるが、新型コロナウィルス感染症による下振れリスクに十分注意する必要がある。					
2021年4月	2021年6月				経済活動の再開が進むにつれて、持ち直しの動きが速くことが期待されるが、新型コロナウィルス感染症の再拡大の影響に十分注意する必要がある。	持ち直している		増加している	持ち直している	
2021年5月	2021年7月		新型コロナ第4波による感染拡大 突風等被害(5/1) 県GoTo停止(5/14) 県GoTo再開(5/21)		ワクチン接種が進むなかで、持ち直しの動きが速くことが期待されるが、新型コロナウィルス感染症の再拡大の影響に、十分注意する必要がある。					
2021年6月	2021年8月	首都圏等にまん防、緊急事態宣言(4/5-9/30)			ワクチン接種が進むなかで、持ち直しの動きが速くことが期待されるが、新型コロナウィルス感染症の再拡大の影響に、十分注意する必要がある。	緩やかに持ち直している			持ち直している	
2021年7月	2021年9月		熱海市伊豆山地区土砂災害(7/3) 県GoTo再開(7/3) 県GoTo停止(7/26) 東京2020オリンピック・パラリンピック(7/23-9/5)	新型コロナウィルス感染症の影響により厳しい状況にあるものの、 <b>持ち直しの動きがみられる</b>	ワクチン接種が進むなかで、持ち直しの動きが速くことが期待されるが、新型コロナウィルス感染症の再拡大の影響に、十分注意する必要がある。	緩やかに持ち直している			持ち直している	
2021年8月	2021年10月	首都圏等にまん防、緊急事態宣言(4/5-9/30) 静岡県(8/8-8/19)	新型コロナ第5波による感染拡大(デルタ株)	新型コロナウィルス感染症の影響により厳しい状況にある。	ワクチン接種が進むなかで、持ち直しの動きが速くことが期待されるが、新型コロナウィルス感染症の再拡大の影響に、十分注意する必要がある。	緩やかに持ち直している			持ち直している	全体として増加しているが、自動車に減少の動きがみられる
2021年9月	2021年11月	静岡県に緊急事態宣言(8/20-9/30)	ワクチン接種率全国50%超え		先行きについては、ワクチン接種の進展や行動制限の緩和による持ち直しの動きが期待されるが、新型コロナウィルス感染症の動向に十分注意する必要がある。	増加の動きがみられる		自動車を中心に増勢が鈍化している	持ち直している	全体として、改善の動きが鈍化している
2021年10月	2021年12月		岸田政権発足 県GoTo再開(10/9)	新型コロナウィルス感染症の影響が緩和に向いつつあるが、供給面の制約等により、足踏み状態が続いている。	先行きについては、ワクチン接種の進展や行動制限の緩和による持ち直しの動きが期待されるが、新型コロナウィルス感染症の動向に十分注意する必要がある。	供給制約などの影響を受けている一部品目を除き、 <b>持ち直しの動きがみられる</b>			弱めの動きとなっている	
2021年11月	2022年1月		国 原油高対策		先行きについては、全体としては持ち直しの動きが期待されるが、原材料価格の動向や部品供給停滞等の影響に留意する必要がある。			おおむね横ばいとなっている		
2021年12月	2022年2月			供給面の制約が残るほか、海外を中心とした新型コロナウィルス感染症再拡大の影響から足踏み状態が続いている。	先行きについては、全体としては持ち直しの動きが期待される一方、新型コロナウィルス感染症の動向に十分注意する必要があるほか、原材料価格の動向や部品供給停滞等の影響に留意する必要がある。	全体として横ばいとなっている			弱めの動きが続いている	

本書で掲載している県内の主要統計資料の時系列（過去10年間）のデータは静岡県公式ホームページの「統計センターしずおか」で公表しています。

静岡県公式ホームページ⇒統計・調査⇒統計センターしずおか⇒県内主要統計指標  
<http://toukei.pref.shizuoka.jp/>

需要面	生産面	雇用面	その他
・大型小売店販売額	・鉱工業生産指数	・有効求人倍率	・国内企業物価指数
・専門量販店等販売額	・鉱工業在庫指数	・雇用保険受給者実人員	・県内金融機関貸出残高
・自動車新規登録台数		・完全失業率	・信用保証協会保証金額
・新設住宅着工戸数		・所定外労働時間指数	・企業倒産件数
・清水税関支所管内輸出額			
・清水税関支所管内輸入額			

### 提供いただいている資料

資料名	提供元	ホームページアドレス
公共工事請負金額	東日本建設業保証（株）	<a href="http://www.ejcs.co.jp/region/index.html">http://www.ejcs.co.jp/region/index.html</a>
設備投資	日本銀行静岡支店	<a href="http://www3.boj.or.jp/shizuoka/kouhyou/hyousi_f.html">http://www3.boj.or.jp/shizuoka/kouhyou/hyousi_f.html</a>
貸出約定金利		
国内企業物価指数	日本銀行	<a href="http://www.boj.or.jp/type/statat/boj_stat/index.htm">http://www.boj.or.jp/type/statat/boj_stat/index.htm</a>
円相場		

### 参考となる全国の資料等

資料名	提供元	ホームページアドレス
鉱工業生産指数	経済産業省	<a href="http://www.meti.go.jp/statistics/index.html">http://www.meti.go.jp/statistics/index.html</a>
大型小売店販売額		
専門量販店等販売額		
輸出入	財務省	<a href="http://www.mof.go.jp/siryou.htm">http://www.mof.go.jp/siryou.htm</a>
国際収支		
機械受注	内閣府	<a href="http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html">http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/juchu.html</a>
完全失業率	厚生労働省	<a href="http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index.html">http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index.html</a>
有効求人倍率		



静岡県月例経済報告  
令和4年3月号 通巻551号

発行 静岡県経済産業部  
令和4年3月

編集 経済産業部政策管理局産業政策課  
〒420-8601  
静岡市葵区追手町9-6  
TEL 054-221-2635  
FAX 054-221-3217  
E-mail [sangyo-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:sangyo-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp)  
URL <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/>